

平成の世に甦る！名勝小金井桜

新聞報道

1995年から2011年



2011年2月11日、小金井市長・小平市長・東京都教育庁・東京都水道局による小金井桜後継樹の植樹祭

名勝 小金井桜の会

名勝小金井(さくづ)再生・復活計画

玉川上水は平成15年8月に国の史跡に指定され、所有者の東京都水道局は平成21年8月に「史跡玉川上水整備活用計画」を策定しました。

市ではこの計画を受け、歴史的文化遺産である名勝小金井(さくづ)を再生・復活し、まちづくりに生かすための計画を策定しました。ここでは、その概要をお知らせします。

名勝小金井(さくづ)とは

江戸時代の武蔵野新田開発の時代に、小金井橋を中心とした玉川上水の両岸約6きみに植えられたヤマザクツの並木で、歌川広重が錦絵に描くなど、江戸近郊の花見の名所として有名になりました。

大正13年には、多種多様なヤマザクツの天然発種の一大集植地として他に類がないことから、国の名勝に指定されました。

昭和30年代までは、花見客で大いに賑わいましたが、玉川上水の通水停止後は、自然に雑木が繁茂し、周辺の都市化など生育環境の悪化により、名勝としての桜並木の景観が著しく衰えています。

計画年度と整備エリア

市では、都水道局・都教育庁・関係自治体、市民団体と互いに連携、協働して名勝景観の復活に取り組ん

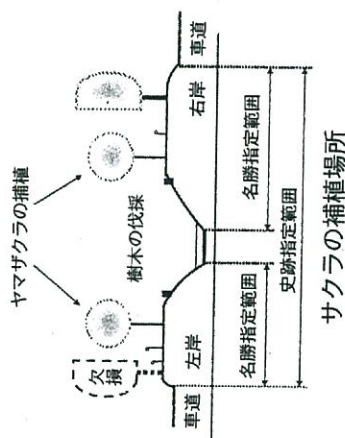
でいきます。

都水道局の計画年度は、今年から10年間で、名勝指定区間約6きみのうちエドル区間に設定された新小金井橋から関野橋までの約1.5きみの区間の整備を行います。今年度はその内の約0.5きみが試験的に施行されます。

ヤマザクツを補植します

玉川上水の眺望やヤマザクツの生育環境を確保するため、都水道局がケヤキなど雑木の伐採や剪定作業を実施します。

その後、フェンスの内側に一列にヤマザクツの後継樹を補植します。補植する苗木は、小金井堤産のほか、歴史的系譜にある茨城県桜川、奈良県吉野、岩手県北上屋敷地といった名勝から導入し、多種多様なヤマザクツを計画的に補植していきます。後継樹の育成は、市が市民団体と協力しながら確保に努めます。



緑道等や人道橋を整備します

市は、よの多くの人が安

全・快適に利用し、親しめるようにするため、市が管理している玉川上水緑道のフェンス・歩道・スロープ等を名勝景観にふさわしいものに改良整備します。

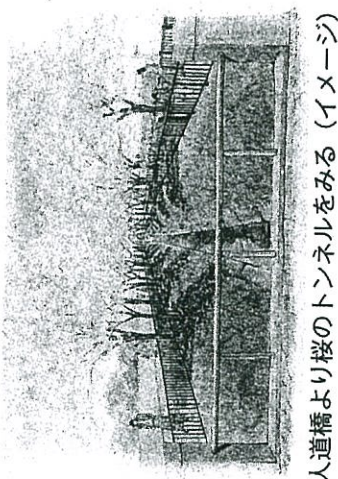
また、人道橋は、桜並木を眺望し、名勝景観を際立たせるため、また、周辺の文化施設をつなぐ散策ルートとして必要な施設として、モデル区間に、昭和初期の小金井橋を彷彿とさせるような人道橋を整備します。

その他の取り組み

市は、史跡玉川上水・名勝小金井(さくづ)への理解を深め、親しんでいただくため、散策ルートの整備、PR活動の強化、学校教育との連携、文化財センターの充実(関係資料の収集・展示)を図ります。

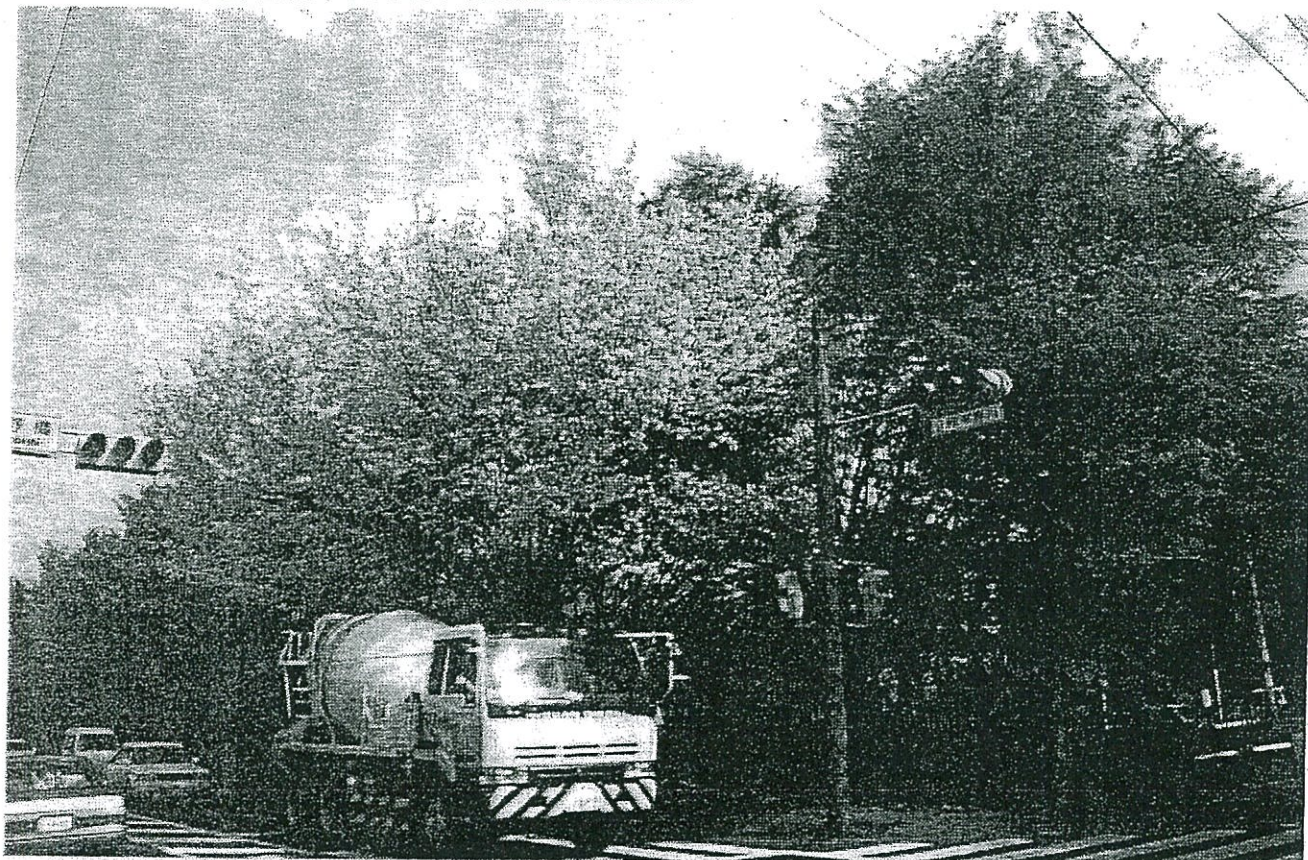
事業の円滑な実施のため、関係機関や市民団体との連携、協働体制を強化します。

問合せ先 生涯学習課文化財係 ☎(042)387-9879



人道橋より桜のトンネルをみる(イメージ)

上水べりにケヤキなどが育った。小金井桜への日の光をさえぎるところもある＝小金井市関野町1丁目で（写真は桜井保秋さん）



小金井桜

影さす樹容に保全の光

春、上水堤はピンク色に染まる。

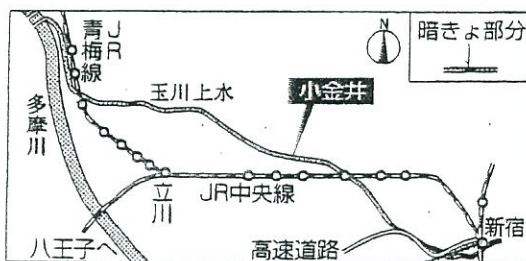
小金井市周辺の堤にあるサクラ並木は、国の名勝に指定されている。花見の行楽地としても知られた。

「樹容の壮大にして、密着せる白花に濃赤の嫩葉（こんよう）を冠し美観極まりなし」大正から昭和初期、小金井桜を学術研究した三好孝・東京帝国大学教授（一八六二―一九三九年）は、「日の出の桜」と名付けたサクラをこう書いた。

「それほど美しいなら、探してみよう」。小金井市を中心に活動する「名勝ノ小金井桜に親しむ会」は、今年の開花期、三好教授が「三吉野桜」と命名したサクラを見つけたように、堤を歩いた。ヤマザクラは天然の変種が多い。会は、三好教授の著書などをもとに、可能性のある古木六十四本を調べた。

このうち、関野橋の近くにある一本が、「三吉野桜」によく似ていた。花は白の中輪、若葉は赤茶色。今年の開花は例年より十日ほど早く、三好教授の記述とすればあるが、会の代表世話人石田精一さん（68）は「可能性のある木が見つかった」と話す。樹齢は百年以上になるかもしれない。

三好教授らが保護運動をし

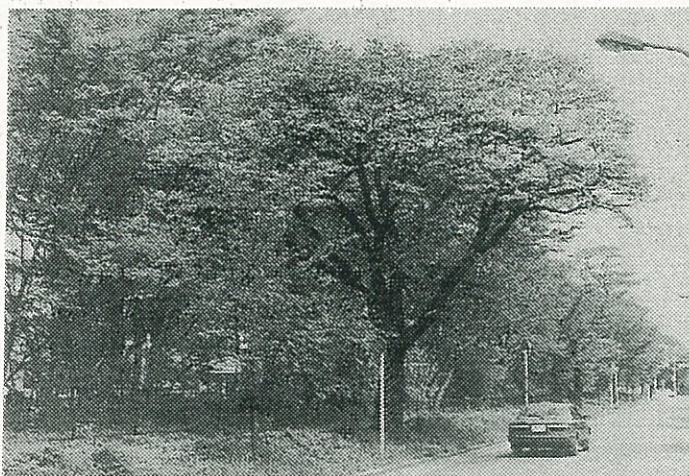


て名勝になった小金井桜は今、衰えが目立ち始めた。巨木も減った。ケヤキが自生し、光をさえぎっている。並行して走る五日市街道を通る車の排ガスの影響も指摘されている。

サクラの回復にむけて、都教委に委託された調査団は九年、ケヤキを切ることを提言した。都教委は、都条例の歴史的環境保全地域指定を検討するなかで、対策を練ることにしている。

調査団員だった自然文化研究家の米谷開朗さん（69）は警告する。「上水堤はヤマザクラのコレクションのようだった。それが朽ちようとしている。いま、心を込めないと、取り返しのつかない未来を迎える」

玉川上水沿いに残る幻?の桜



現在の小金井桜

多摩史再訪

□66■



米谷開司朗さん

表皮が黒く、いついつした幹を見上げると、枝一面に薄緑色の葉と白い花が広がる。小平、小金井市の玉川上水沿いの「小金井桜」の山桜の並木は、今月いっぱい満開の花を咲かせている。

＊ ＊ ＊
小金井桜に関する著書が二冊残っている。一九二八

年(昭和三)に東京市(当時)が発刊した「小金井桜花図説 第一、二集」だ。著者は東京帝国大学教授の理学博士・三好学(一八六一一九三九年)。

それだけの学名や花びらの大きき色合い、開花時期、植えられた場所なども丹念に記されている。

「当時の観光名所だった小金井桜の、いわば桜カタ

化研究家・米谷開司朗さん(五八)が語る。

「ただ、どの木がどの桜なのか、特定できないんです」

小金井桜

大正期に変種確認 放置され識別困難

ログだったようです。二一で全国的にも珍しい桜の天然変種群が確認されたばかりの時でした」

小平市学園西町の自然文

一六五四年(承応三)、江戸の飲料水確保などを目的に玉川上水が開通。その約八十年後、今の小平市周

いる。

名勝指定に向けて、東京市の依頼で調査を担当したのが三好博士だった。火山灰層の土壌が生育に適している山桜は、もともと変種が生まれやすい。三好博士の確認作業により、既存の種類も含め約千本の山桜が六十七種類に分類され、命名された。「図説」は、そのうち二十九種類を紹介し、植栽場所も記録している。



三好博士が命名した「富士見桜」(「小金井桜花図説」)

＊ ＊ ＊
その小金井桜に転機が訪れる。昭和四十年代前半、

新宿区の淀橋浄水場が廃止になり、東村山に浄水場ができた。玉川上水の水を浄水場に送るため、小平市から下流の上水の水量が激減した。

上水を管理する都庁内でも担当部署が何度も変わり、上水沿いは下草刈りもされなくなり、桜以外の木も生い茂り始めた。三好博士の分類番号により桜に張り付けた番号札も、いつしか消失する。

小山 孝

江戸期からの名所

小金井桜絶やすな

八代將軍徳川吉宗の時代に玉川上水堤に植えられたという小金井桜。さまざまな種類のヤマザクラの並木がけんに咲きそろそろ姿は大正期、国の名勝に指定された。いまや、木は古い、周囲は都市化。ケヤキなどの高木に生育が妨げられて、すっかり元気がない。さて、どうするか。「堤の高木を伐採すべきだ」という大胆な提案も含め、並木再生の問題を検討し、合意連続市民講座が来月、小金井市で始まる。

市など関係者によると、並木が最初に植えられたのは、十八世紀前半。武蔵野の新田開発の功労者とされる川崎平右衛門が幕府の命を受け、現在の小平市から武蔵野市までの約六キロに数千本を植えた。

十九世紀には江戸の桜の名所の一つになった。明治以後も地元の人々が守り、名勝に指定された一九二四年(大正十三年)のこ

来月 再生めざし市民講座



ヤマザクラ並木での戦前の花見。玉川上水の堤に現在のような高木は茂っていない＝1935年以前、小金井市の現小金井橋付近で

くなった結果、ケヤキやコナラなどの高木が急速に成長した。うっそうとした高木の枝がヤマザクラの枝の生育を妨げたり、日光をさえぎったりする状態になっている。

昨年三月、都教育委員会がまとめた小金井桜の調査報告書が一石を投じた。並木衰弱の主な原因として「高木の圧迫」をあげ、伐採し、高木にしないためにせんていや間引きをし、かつての花見ができるような草地の堤の復活も提案している。

連続講座を開くのは、市民館緑分館。小金井桜の並木のすぐ近くにある。二月十七日から三月十六日までの間に五回。

講師は、近世史家の竹内誠・東京学芸大教授や小林義雄・日本さくらの会理事ら。緑分館は「報告書が提案する高木の伐採は、グリーンベルトになっている現在の上水の姿を愛する人にとっては反対だろう。議論を重ねてこそ良い知恵も見つかるのではないか」という。

受講できる人数は五十人。無料。申し込みは、往復はがきに住所、氏名、年齢を書いて二月十日までに小金井市市民館緑分館(〒184 小金井市緑町三の三の二三)へ。問い合わせも緑分館(☎0423・87・7301)へ。

ろは約二千本、七十品種近くを数えた。

昭和に入ると、戦争による混乱で保護策も停滞し

た。戦後、並木に平行するろに受けたりした。

五日市街道の拡幅工事で枝や根を切られたり、車の激増による排ガスの影響をも下草刈りが十分に行われな

武蔵野版

武蔵野支局
武蔵野市西久保
1の4の10 千180
電話
(0422)51-3131
FAX
(0422)51-3133
広告連絡
(0425)24-0435

安藤広重が描いた小金井桜。
江戸時代から桜の名所だった



国の名勝指定

小金井桜 学んで次代へ

市が講座 来月から
計5回

国の名勝に指定されている玉川上水沿いの「小金井桜」について学ぼうという市民講座が、来月から小金井市緑町三の市民館緑分館で始まる。かつての名所・小金井桜も、今では道路拡幅や排ガスなどで、その数が減り、樹勢も衰えた。講座では、桜を市民の手で、どう次代に伝えていくかを考える。

上水の堤の両側に桜が植えられたのは、玉川上水が完成して約百年後の江戸時代半ば、一七〇〇年代初めとされている。奈良の吉野山などからヤマザクラの苗木を取り寄せて植えたという。

ヤマザクラの花は、純白から淡い紅色まで色とりどりで、花と一緒に開く赤や茶、黄色などの新葉との組み合わせが独特の美しさを持つ。

小金井桜の特徴は、本数と品種が多いこと。大正時代の調査では、三十八品種計約一千本あり、色や香り

ろではなくなり、戦後は玉

葉天教授、小林義雄・日本さくらの会理事、父親が「桜会」で小金井桜の保護をしたという鈴木誠一・元小

金井市長らを招き、小金井の歴史や特徴などについて、様々な角度から研究す

同分館では「小金井の桜の名所は今、玉川上水に近い小金井公園に移ってしまったが、受講生の中から、



いまでも満開の花をつける「小金井桜」もある(94年4月撮影、小金井市桜町付近)

小金井桜に興味を持ち、市民の立場から保護を考える人が出てきてくれるといい」と話している。

定員五十人。参加無料。

問い合わせは同分館(0423・87・7301)。

の違う花が時期をずらして咲き乱れた。古木も多く、学術上極めて貴重」として、一九二四年(大正十三年)には国の名勝に指定され、昭和の初期まで花見の名所としてにぎわったという。

桜の手入れは江戸時代から近隣の住民が行い、大正時代になつてからも小平、保谷など地元住民が「小金井保桜会」を結成。苗木を育てて補植するなど、地元住民が当時の東京市と協力して管理にあたってきた。

しかし、戦争で管理がこ

武蔵野残照

▶ 4 ◀



「立派な緑地帯が街の真ん中であつてうらやましい」。
玉川上水を散策する人たちがこんな会話をしていると、鈴木誠一さん(87)(小金井市桜町)は複雑な心境になる。

水。土の法面が残っている場所では、漂着したケヤキ、クヌギ、コナラなどの種が成長して根を張らせ、その樹冠が緑のトンネルのように上水を覆っている。

今こそ見慣れた風景だが、一九六五年に小平監視所より下流の通水が止まり、下草刈りが行われなくなつて以降、わずかに三十年ほどの間に出来上がったものにすぎない。

続く「先住」のヤマザクラの並木は、奔放に枝を伸ばす雑木の勢いに押されて元気がない。「車の排ガスの影響もあるが、ケヤキに日光をささぎられ、このままでは根が絶えてしまつた」。鈴木さんは心配でならない。

大震災の翌年に、旧小川水衛所(小平市)から境橋(武蔵野・保谷市)にいたる約六キロの国名勝に指定された。友人とともに、この桜並木を歩いた時の様子を、国木田独歩は「武蔵野」につづっている。季節はずれの夏だった

の人の手で守られてきた。鈴木さんの家では、畑百五十平方メートルを、住民で作つた「小金井保樹会」に貸し、そこで何十本というヤマザクラを育てた。桜の苗が、腕より太くなると、根から掘り返し、リヤカーで運び出す。幼かった鈴木さんは、植え替えの様子をよく見に行つたという。

成長した木の重みに上水の土の壁が耐えられなくなつて、他の植物と混在すると弱くなる性質の桜は、雑木の力にはかなわない。米谷さんは、上水や桜を守るためにも、ケヤキなどを思い切って伐採する時期にきて、と指摘する。

上水の華彩りに影

雑木根付き、桜並木衰え

明治20年代、玉川上水での花見(小金井市文化財センター所蔵)



玉川上水の土の法面から伸びる雑木。木の重みで崩れ落ちる場所があちこちで見ることができる

に「さ」を広げたり、緑帯を持ち出し、思い思いに桜を楽しむんだ。今じゃ車の窓から「あれが小金井桜だよ」と指さして通り過ぎて行くだけですから……」

吉野山(奈良県)や関東各地から集めたといわれる小金井の桜は花形や芽の色、開花時期など様々。かつて、六十八品種が生育していたらしい。都教委が三年前に行った調査では、名勝指定地域では約七十年前、千四百六十八本の桜があつたが、千四百一本と米谷さんは話している。

「あれだけ大きくなった木を切るには住民の感情的な反発もあるはず。納得して、手を付けるなら早い方がいい」と米谷さんは話している。

1999年(平成11年)4月11日(日曜日)

「小金井桜」で初の写真コンクール



「親しむ会」

展示会

今秋開催

への作品を募集

江戸時代から昭和初期にかけて桜の名所だった、玉川上水両岸の「名勝・小金井桜」復活を願って、地元で保存運動に取り組んでいる「名勝・小金井桜に親しむ会」が、今秋開く「小金井桜写真展」の作品を募集する。都が玉川上水を歴史環境保全地域に指定する準備を進めているのに呼応して、同会が初めて一般に呼び掛けて開く写真展。同会では「小金井桜を多くの人に知ってもらうきっかけになれば」と話している。

小金井桜は小平市の旧小川水衛所から保谷市の境橋まで六キロの玉川上水両岸に植えられた山桜のことで、起源は約二百六十年前の元文年間。大正十三年に国の名勝地に指定され、今も千七百二十本ある桜のうち、七百本近い山桜がある。

しかし、玉川上水の管理が放置され、生い茂った雑木の中に紛れてしまっており、五日市街道の排ガスや道行く人に根元が踏み固められ、生育環境が悪化しているのが現状だ。

そんな、小金井桜の魅力

咲き誇る小金井桜「小金井市教委発行の「名勝小金井桜絵巻」から

『多くの人に知ってもらうきっかけに』

を再評価しようと、小金井市が開いた講座をきっかけに三年前に「親しむ会」が発足。古木を中心に継続調査を行い、品種確認し、赤、

の写真展で最初はずまいかなと思うが、毎年開催していきたい。山桜はソメイヨシノより遅く咲くが、早いのは今月二十八日ごろにも咲きだすものもある」と話している。

写真の応募方法は、今年撮影のカラフルプリント(ポジ可)をキャビネサイズで、写した桜の幹にある桜樹番号、撮影年月日、作者の住所、氏名、年齢、電話番号を書いて、〒180-0015 小金井市貴井北町三ノ九一八、石田方、名勝・小金井桜に親しむ会まで郵送。入選一点を展示する。問い合わせは親しむ会へ電042(3223)0698へ。

11.3.12 (緑町三ノ二ノ三七、浴恩館公園内)で開催、今年も四月三日から五月五

武蔵野版

武蔵野支局
武蔵野市西久保
1の4の10
〒180-0013
☎(0422)51-3131
FAX
(0422)51-3133
広告連絡
(0425)24-0435

購読申し込み
フリーダイヤル
0120-0000-81

レンガの橋台守ろう

市民団体 玉川上水の遺産、後世に

都道拡幅で 架け替え必至 「小金井橋」

小金井市桜町の玉川上水に架かる「小金井橋」の下の方をよく見ると、レンガ造りのアーチ型橋台が目に見え込んでくる。架け替えは六十九年前で、上水を彩る九十二の橋の中では一番目に古く、趣もある。ところが、都が進めている都道小金井街道の拡幅計画に伴い、新たな架け替えが必至で、市民グループからは「壊されるのはもったいない。アーチの一部だけでも残せないか」と、心配する声が上がっている。

(柳瀬 裕之)

市教委社会教育課文化財係主任の伊藤富治夫さん(48)によると、小金井橋は江戸時代の終わりの木橋から石橋になり、一九三〇年(昭和五)、四層のレンガで出来たアーチ型の橋を持つ橋に変わった。その後、橋の上部は何度か補修されているが、都によると、小金井橋は、玉川上水に架かる九十二の橋

(鉄道橋を除く)のうち金比羅橋(立川市、二九年建設)に次いで古く、他の橋の大部分は六五年(昭和四十)以降に架け替えられている。

都道小金井街道の小金井橋—JR武蔵小金井駅間(二・二キロ)を現在の幅九メートルから十六メートルに広げるため、

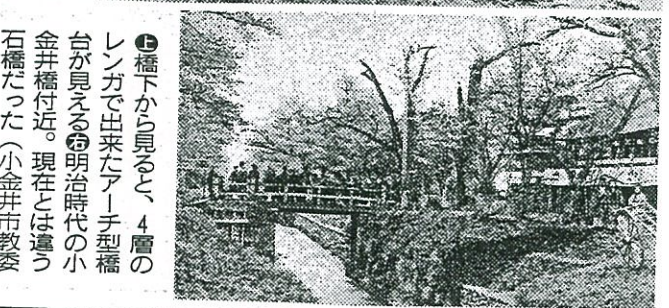
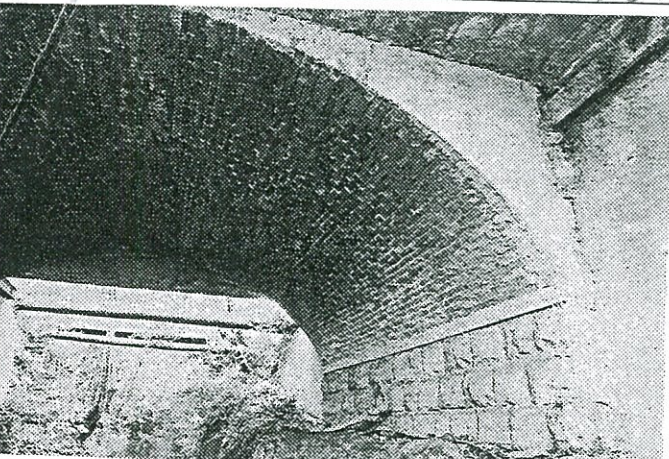
都が用地買収の交渉を始めたのは九四年。現在、計画区間のうち北側八百メートルが九割以上まで進んだが、南側四百メートルは地権者への説明会が昨年七月に始まったばかりで、都北多摩南部建設事務所では「北側の買収が完了した時点で、拡幅工事に着手する」という。

そんな中で今年三月、街づくりについて考えようと小金井市民ら約十人で発足した団体「アメニティタウンの会」は、玉川上水や市の歴史を伝える遺産として小金井橋に注目した。自然や歴史と調和した暮らしについて話し合う月例の勉強会やテーマに取り上げたところ、「拡幅で架け替えられるのは惜しい。小金井市のシンボルとして残すべき」という声が出たという。

メンバーのうち、東大大学院工学系研究科に勤める吉江勝広さん(あきる野市)は、「小金井橋は、名勝・小金井桜のかつての中心地で、今の橋台ではないが、

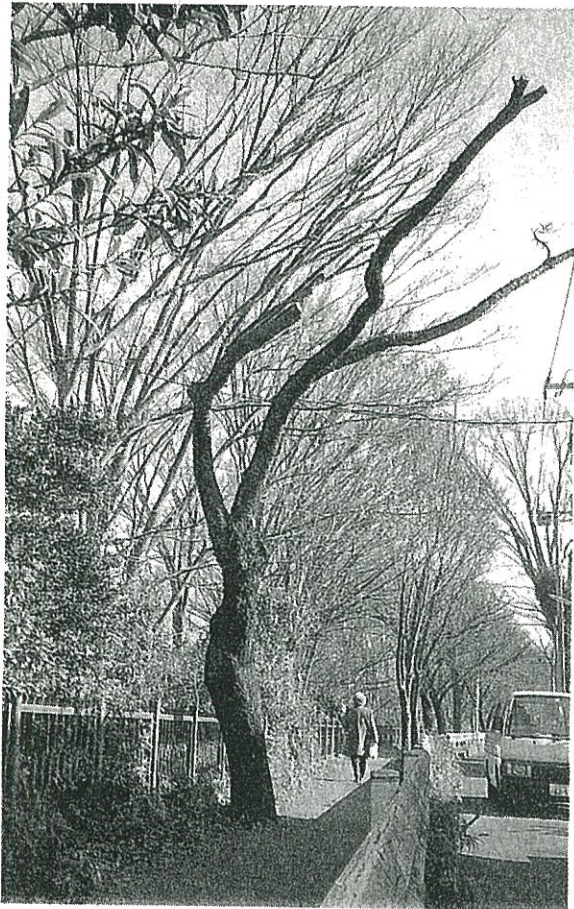
江戸時代に歌川広重も(浮世絵で)描いた。貴重な遺産として、きちりと調査すべきだ」と話す。また、同会世話人で、先月十八日に初めて橋台を見た会社役員、藤村英明さん(63)も、レンガが崩れることなく、見事なアーチを描いており、素晴らしいと思った。橋台を残すよう都に働きかけた

これに対し、都北多摩南部建設事務所の佐竹哲夫・工事第一課長(49)は、「架け替えの手法については白紙の状態。アーチ部分をどうするか、市も交え、地域の要望を聞きながら考えてい」と話している。



橋下から見ると、4層のレンガで出来たアーチ型橋台が見える。明治時代の小金井橋付近。現在とは違う石橋だった(小金井市教委)

サクラの名所 玉川上水堤 今やケヤキの名所?



①「枯死」が一時疑われた565番のヤマザクラ＝東京・武蔵野市で②玉川上水の桜並木(1880年代)、右岸の巨樹は富士見桜(既に伐採されている)＝日本カメラ博物館所蔵

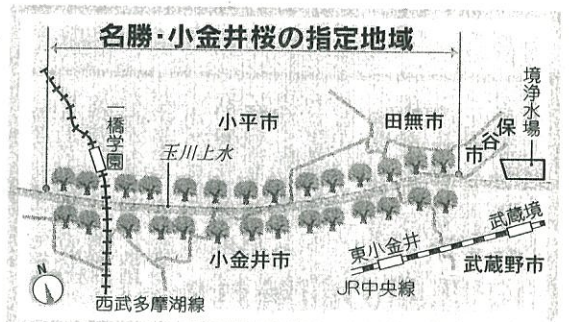


環境保全局の話では、今年の指定後に一部をモデル地域にして、ケヤキをせん定する。ケヤキを全部切り倒さず、サクラとの共存を目指す。同局の担当者も「これまでの縦割り行政の中では保存も進まなかった」と話した。

地元で保存運動に取り組んできた「名勝小金井桜に親しむ会」代表世話人の石田精一さん(68)は「本来、都がしかるべく管理しなければいけなかった」と指摘する。「サクラがすくすくと伸びて毎年きれいな花を咲かせる。そんな名勝に指定されたころを復元したい」と願いを語った。

名勝返り咲くか 小金井桜

かつて、江戸近郊随一のサクラの名所だった玉川上水堤の名勝・小金井桜を復活させる計画が東京都で進んでいる。約二百六十年前から続く桜並木が衰退した最大の原因は、縦割り行政で手入れができなかったこと。この障害を都知事が管理の主役となる都自然保護条例の「歴史環境保全地域」に指定することで解決する。月内にも玉川上水を歴史環境保全地域に指定、サクラを庄するほど大きくなったケヤキなどの伐採に取り掛かる予定だ。



565番のヤマザクラは、黒ずんだボロボロの木肌をさらしている。武蔵野市桜堤の新築マンション前に立つ。両手を空に突き出し、腰をくねらせたような「く」の字形の黒いシルエットが、青い空を背景に浮かび上がっている。

数年前の春まで、葉と同時に咲く花が住民を喜ばせてきた。管理する都教育委員会は565番を「枯死」とみて伐採を検討したが、枯死していないことが分り枯れた桜を扱った。

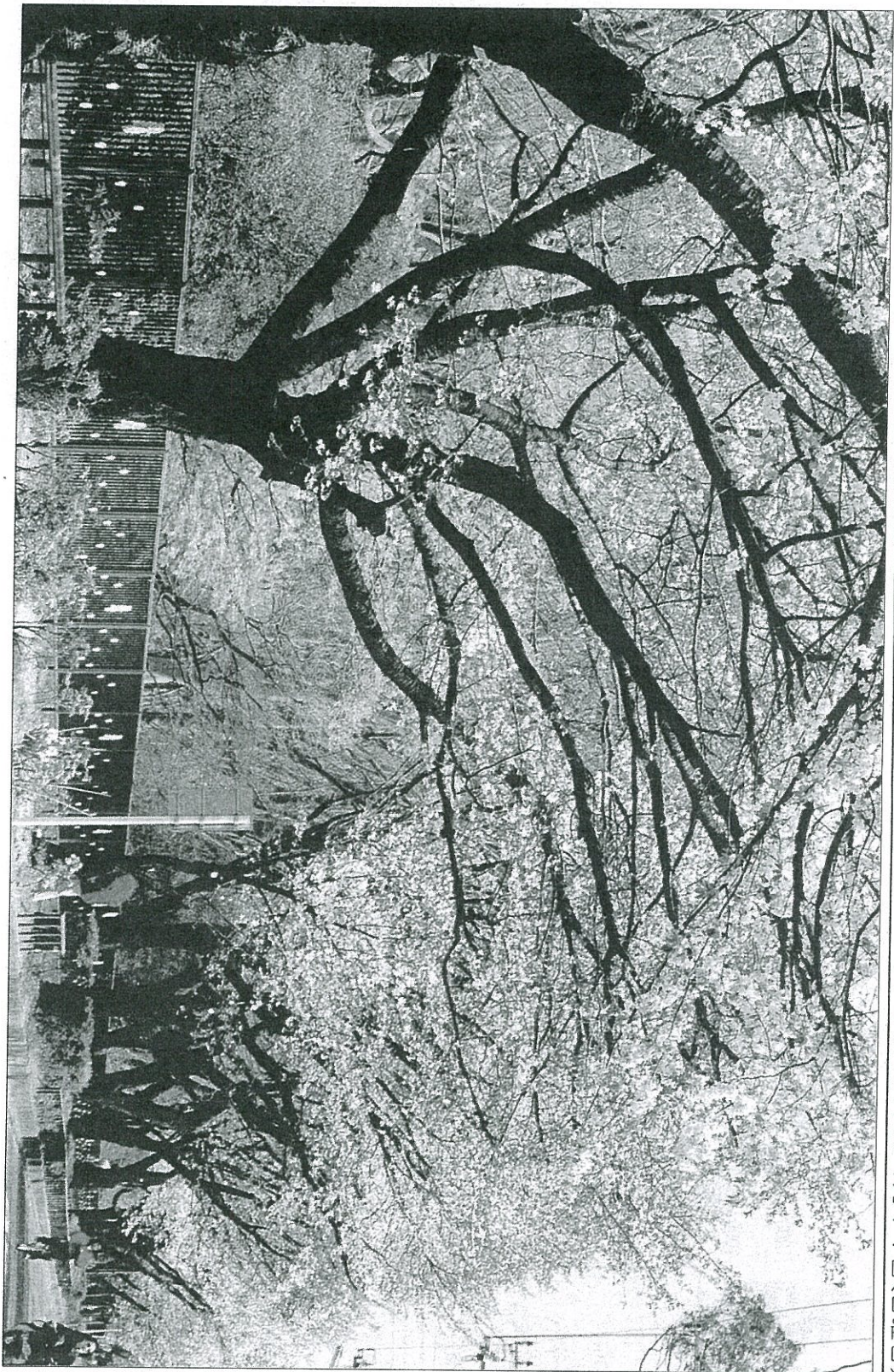
月内にも保全地域指定 ケヤキせん定、共存へ

小金井桜は、小平市の小川水衛所跡から保谷市の境りたつてもできなかった橋まで、玉川上水の両岸約六キロに並ぶ。大正時代に国の「名勝」となり、当時は千四百六十八本あった。だがいまやケヤキ約三千四百本が残り、サクラは約千本。雑木林といったが、一九六五年の淀橋浄水場の廃止で玉川上水に水流がなくなり、都水道局による下草刈りが水路の斜面で行われなくなるとケヤキが自生、急成長した。小金井桜の保存を担当する都教

委の学芸員は「ケヤキを切りたくてもできなかった」と振り返る。サクラは都教委、玉川上水の素掘りは都水道局、歩道・道路は都建設局や流域の四市(小平、小金井、保谷、武蔵野)——と管理者が異なる。例えば、都教委がサクラのわきのケヤキを切りたくても水道局との調整が必要になる。歩道に出ている枝を切るにも建設局や市と協議を開く。

都教委が行った保存活動は、病害虫の駆除、枯死したサクラの伐採、補植だ。根本的な対策のケヤキ伐採などには手を付けられなかった。しかし、保全地域への指定によって、都知事を中心に環境保全局が連絡パイプ役となり、手入れがよ

縦割り行政で管理四分



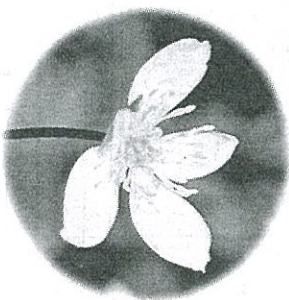
玉川上水

玉川上水といえば、小金井桜。江戸時代の現在、東京都小金井市を流れる玉川上水の両岸に奈良・吉野や斑鳩・桜川から取り寄

気品

薫り立つ

せたヤザミの苗木が植えられた。明治時代、この桜を調べた三好孝博士は、淡雪桜、小町桜など六十種以上の品種に分類したが、いまはもう残っていないようだ。現在、三田本が迫道に咲いているが、そのうち七本がヤサミ。メイトヨシと比べて、やや地味な花だが、気品があり、訪れる人々も多し。(東京都小金井市で、鐺山英次氏写)



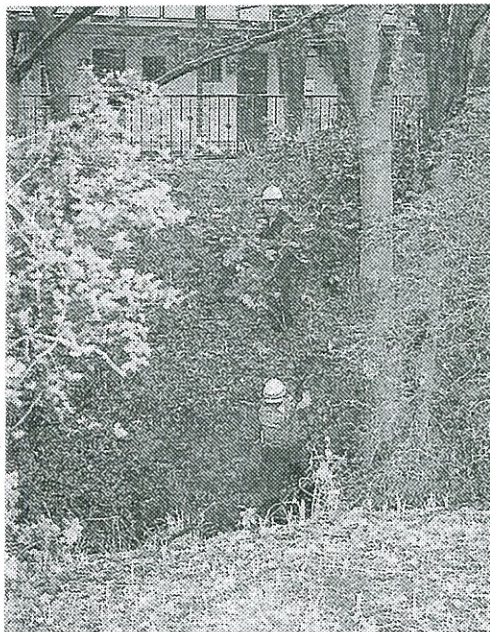
咲き始めたコナツミ
＝小平市で

よみがえれ 玉川上水の景観

植生回復へ下草刈り

都ケヤキせん定も予定

小金井市にある玉川上水の堤で、植生の回復を目指し、都が下草刈りを始めた。「名勝・小金井桜」が立ち並ぶ上水沿いが月内にも都の歴史環境保全地域に指定されるのを踏まえた動き。かつて桜の下で咲き乱れていたキンラン、ギンランなどの植物を復活させるのが狙いで、刈る範囲を決める際は地元自然保護団体の意見を仰いだという。桜に日が当たるようにと、都は引き続きケヤキのせん定を予定しているが、一部住民の反発も予想される。



小金井市の玉川上水堀で行われている下草刈りで、刈り取った低木を堤にあげる作業員。写真右の大木はケヤキ

保谷市の境橋から小平市の旧小川水衛所まで約六キロの上水両岸には、小金井桜が約千本並ぶ。江戸中期に徳川吉宗の命で植えられたとされるが、六五年に淀橋浄水場の廃止で水流が止

「ウィーン」。乾いた金属音が響く。深さ約二・五メートルの堀の壁面に張り付いた作業員が、アオキ、シユロなどの低木をチェーンソーで刈り込み、草刈り機で下草も払っていく。

「ウィーン」。乾いた金属音が響く。深さ約二・五メートルの堀の壁面に張り付いた作業員が、アオキ、シユロなどの低木をチェーンソーで刈り込み、草刈り機で下草も払っていく。

さてからは、都が堤の整備から手を引き、荒廃が進んだ。八六年、下水処理水を立川市の小平監視所から引き込んで二十一年ぶりに流れは復活したが、景観改善が急務となっていた。このため、沿線自治会など計三十八団体が作る都・区市連絡協議会が、九七年から保全地域の指定準備と並行して景観の改善策を練り、①小金井桜の復元②崩落が続く堀のり面の保全③下草などの管理——を三本柱に据えた。

武蔵野版

武蔵野支局
武蔵野市西久保
1の4の10
〒180-0013
☎(0422)51-3131
FAX
(0422)51-3133
広告連絡
(0425)24-0435

購読申し込み
フリーダイヤル
0120-0000-81

香る桜を次代に残す

北上市相去町の北上農高(属柳昌三郎校長、生徒二百四十四人)は、市の桜の名所、展勝地一帯の桜のうち、日本古来の系統を継ぐ希少種のヤマザクラの苗木づくりに成功、十七日同市に寄贈した。展勝地が整備された八十年前に植栽され、バラのような香りを放つ「北澄(ほくちよう)の香輪」と呼ばれる品種も含まれる。原木の老化で絶滅を危うくした市民から依頼され、農業科生が協力し三年がかりで取り組んでいた。

展勝地は大正十年の開園。造園の際、江戸時代から桜の名所として名高かった、東京都小金井市周辺のヤマザクラが北上市に数百年贈られ、現在の展勝地レストハウスから県道を挟んだ高台の陣ヶ丘付近に植栽

北上農高 苗木づくり成功

希少種、3年がかり



伊藤市長(左)に歴史的に価値が高い桜の苗木を届ける北上農高の生徒代表

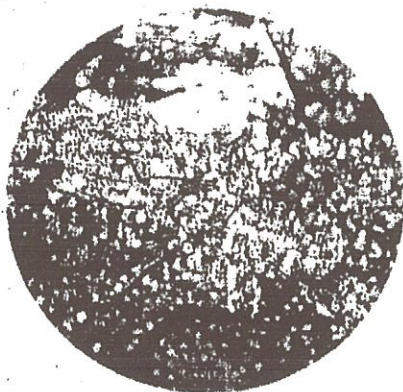
された。北上川沿いの桜並木を形成しているソメイヨシノが終わるころ咲く。

「小金井」の桜並木は、平安時代の桜名勝地、「奈良の吉野」や「水戸」(茨城)の桜を移植。香りを放つ野生種は二本しかなく、たまたま残った。

桜を愛好する組織・北上さくらの会(会長・伊藤彬、延べ十五人が苗木づくりに北上市長)は、「小金井」から受け継いだ品種のうち

特徴あるものに「北澄の香輪」「和賀の明星」など命名。これらは、「小金井」などほかの三方所では絶滅、今では展勝地しかない。しかし展勝地も樹木の老朽が進み平成九年に、同校に協力を要請。農業科の草花を選定する「三年生」を支援する。苗木づくりに二本を市に贈ったが、「北澄の香輪」も二本含む。苗木を伊藤市長に届けた河

市に寄贈 「挿し木」で育てる 来年展勝地に植栽



北上・陣ヶ丘の「小金井」ヤマザクラ＝北上さくらの会の熊谷明彦事務局長が10年5月撮影

東田健太君(三年)は「これまで成長させるのは大変だったがすごいことができた」と笑顔を見せた。苗木は市内の業者が育て、来年開園八十周年を迎える展勝地に植栽。花見ができるまで十分育つには十年はかかるが、伊藤市長は「地元の高校生が歴史ある桜を次世代につなげてくれたことは大きな意義がある」と高く評価している。

小金井山桜、"古里"に贈呈

「展勝地」開園80周年で式典

北上市立公園「展勝地」の開園八十周年記念式典が二十七日、同市立花地内のみちのく民俗村演舞場で行われた。式では展勝地の発展に向け、長年にわたって尽力してきた故人を含む六氏、三団体に對して、記念事業実行委員会会長の伊藤彬市長から感謝状が贈られた。また、八十周年記念事業の一つとして、展勝地内に植栽されている国の名勝「小金井山桜」の苗木が、「古里」である東京都小金井市長に對して贈呈された。このほか同日は、「百年の目に見えた北上河畔・展勝地」と題して、国土交通省国土技術政策総合研究所の吉川勝環境研究部長による記念講演も行われた。

6氏、3団体に感謝状も 北上

藤礼次郎元衆議院議員が、「展勝地の桜が二十一世紀も多くの人々に愛されることを願う」と祝辞を寄せた。この後、記念事業の一つとして伊藤市長から小金井市の稲葉孝彦市長に對し、



みちのく民俗村演舞場で行われた展勝地開園80周年記念式典

午前十時半から始まった式典には、伊藤市長をはじめとする市や開園八十周年記念事業実行委員会関係者のほか、来賓として国や県、日本さくら会、関係市町村の代表など約三百人が出席した。式では、八十周年記念事業実行委員会会長の伊藤市長が、先人の手で造り出された展勝地が、開園から八十周年の節目を迎えたことは大きな喜びと語り、「今後も市民とともに守り育てていきたい」とあいさつ。続いて来賓を代表して、展勝地の生みの親である元黒沢尻町長・澤藤幸治氏（故人）の息子でもある澤伊藤市長から「小金井山桜」の苗木の目録を受け取る稲葉小金井市長（右）



展勝地地内で育っている「小金井山桜」の苗木が贈られた。この苗木は、八十一年前の展勝地の開園当時、小金井市から移植された山桜の「跡継ぎ」。国の名勝でもある玉川上水沿いの本家の山桜は、老齢化が進み、その保存が危機的状況に陥っているだけに、今回の山桜の里帰りに際して稲葉市長は、「大変うれしく、ありがたい。これまでは老木を守ることに重点を置いてきたが、今後は北上から贈られる桜を基に、後継ぎ木を育てることに力を入れたい」と語った。さらに、感謝状の贈呈では、展勝地の発展に尽力した個人や団体のほか、開園八十周年を記念して公園内に植樹された「三大桜」の



跡継ぎ木を今回、北上市に寄贈した阿部壽氏（東北ポル代表取締役会長）など四人に對しても感謝状が贈られた。展勝地は、横黒鉄道（現JR北上線）の開通を機に、近郷の人々を黒沢尻の地に引き寄せる風光明媚な名所を造ろうと、黒沢尻町長などを務めた故・澤藤幸治氏の提唱によって構想された。着工は大正九年十一月三日。同所一帯の整備構想の原点となった「和賀展勝地計画」の第一期事業として、翌十年五月二十一日に開園しており、今では北東北を代表する桜の一大名所として県内外に知られる名勝地となっている。

感謝状を受けた個人・団体は次の通り（敬称略）。
【功労者】
▽鈴木五郎（小太郎漢方製薬代表取締役社長） 武内善治（東北油化相談役） 浦和南ライオンズクラブ、北上国見ライオンズクラブ、北上青年会議所、高橋駿介（イリヤマ代表取締役社長）、故・阿部良治、菅原衛、菊池真雄
【三大桜寄贈・育苗】
▽阿部壽（東北ポル代表取締役会長） 山口良雄（岐阜県根尾村・淡墨桜苗木育苗者） 三枝基治（山梨県武川村・山神代桜苗木育苗者） 金田聖美（山形県白鷹町・伊佐沢の久保桜苗木育苗者）



きたかみ

岩手日日新聞社
一関市南町60

北上支社
北上市芳町9の5
電話 0197 (65) 3447
(65) 0468
FAX 0197 (65) 1569
支社 東京・仙台・水戸
支局 花巻・盛岡
支局 平泉・千歳・江刺

© 岩手日日新聞社 20

武蔵野版

武蔵野支局
武蔵野市西久保
1の4の10
〒180-0013
☎(0422)51-3131
FAX
(0422)51-3133
広告連絡
(0425)24-0435

購読申し込み
フリーダイヤル
0120-0000-81

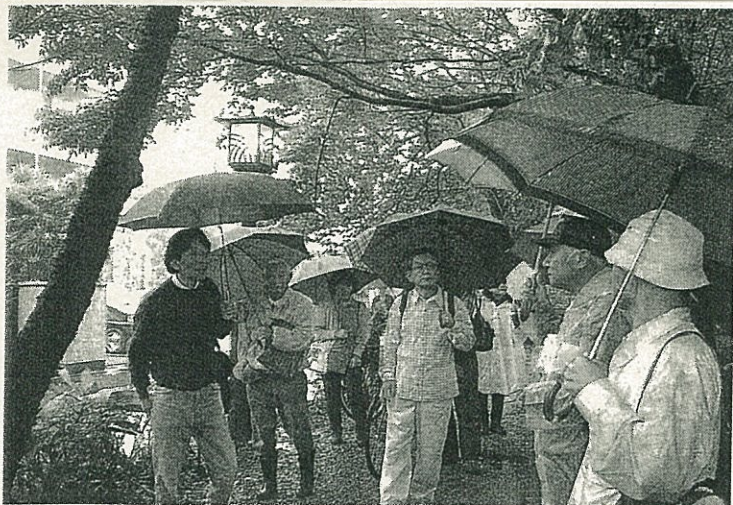
こぶたのボーくん
原作 さくらやういち
「こぶたのボーくん」
「おやつがほしい」
「おおかみがでた」
好評発売中!
「こぶたのボーくん」
オフィシャルホームページ
www.pokun.com

USO 放送

ノーベル賞
発表の翌朝
黒山のひだかり
— 白川博士
(千羽鶴)

小金井桜を守ろう!

市民講座 手入れ学び、地域で管理
機に保存会



桜並木を歩きながら浅田さん(左)の説明を受ける受講生

国の名勝に指定されている玉川上水の「小金井桜」を守ろうと、小金井市の市民講座を修了した人たちが、桜を保存する会を結成することになった。講座で得た桜の知識をもとに、手入れの仕方などを学び、ゆくゆくは地域の人々で桜を植栽・管理していくという。江戸期には上野・寛永寺と並ぶ名所として知られた桜並木も近年は樹勢の衰えが目立ち、「今ある木を長持ちさせることから始めて、少しでも昔の面影に近付ける手伝いができたら」と受講生らは話している。

「小金井桜」は玉川上水の堤に植えられた山桜の並木で、小金井橋(小金井市桜町)を中心に小平市の旧小川水衛所から保谷市と武蔵野市にまたがる境橋まで約六キロ続く。

玉川上水完成の約百年後、徳川八代將軍吉宗の代に、奈良の吉野山などから取り寄せた山桜の苗を植え

市化」の受難が続いた。また昭和四十年ごろから都水道局小平監視所から下流は上水に利用されなくなつて水量も激減した。付近の手入れも行き届かなくなり、ケヤキなどの草木が生い茂って日差しが遮られ、桜の生育環境はますます悪化し、樹勢が衰えた。桜の寿命は七十一・八十年とされているが、継続的に観察して植え替えられることもなく、老木化を心配する声も出ていた。

そこで小金井桜の魅力を再認識してもらおうと、九六年に開かれた市民講座の受講生約三十人が「名勝! 小金井桜に親しむ会」を結成。勉強会や写真展などを開いてきた。

昨年三月に玉川上水の流域五十八・五九が都の歴史環境保全地域に指定されたのをきっかけに、今度は桜の保存に実践的に取り組む人材を確保しようと、市が講座「名勝! 小金井桜を守る」を企画。今年九月から六回の講座で、受講生二十八人が桜の歴史や現状などを学んだ。

今月九日の最終講義では、「日本さくら会」で植栽管理を担当する樹木医の浅田信行さん(53)が、桜の樹勢を回復させるためのせん定や施肥の方法について、実際に桜並木を見ながら解説した。

受講生は十六日に再び集まって保存会結成を決め、今後の活動方針を話し合う予定。桜の手入れは日本さくら会の会が指導を約束している。

受講生で「親しむ会」世話人代表の石田精一さん(70)は、「桜は伸び放題で折れたまま、キノコが生えたものもある。管理の仕方を勉強してできる所から手をかけ、行政と協力しながら保存していきたい」と話している。

小金井新聞

THE KOGANEI SHIMBUN

(毎月1・11・21日発行) 第1180号 (昭和44年5月9日第三種郵便物認可)

1月11日(金)

2002年(平成14年)

発行所

小金井新聞社

東京都小金井市本町5-17-16

電話 042-383-2501(代表)

FAX 042-384-7777

ユニーク冊子を刊行 『往時の花見風景』

『名勝小金井桜を守る会』が

『名勝小金井桜・古老に
聞いた花見の賑い』と題す
るA4判十八ページのユニーク
な冊子が、さきごろ刊行さ
れた【写真】。

これは、市民グループの
『名勝小金井桜を守る会』
(藤村英明代表世話人)が
昨年夏、老人クラブ関野長

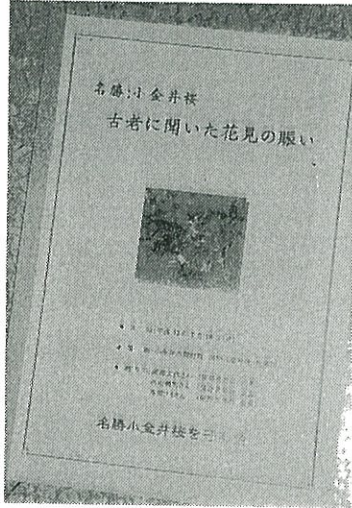
寿会のお年寄り三人を招い
て、華やかだった玉川上水
堤の桜の季節の思い出を語

ってもらった座談記録だ。
小金井の桜といえは今日
では都立小金井公園の染井

吉野だが、かつては玉川上
水堤の山桜のことであり、
江戸の昔から桜の名所とし

て栄え、国の名勝にも指定
されていた。

多摩川から江戸へ飲料水
を送るために完成した玉川
上水に、江戸幕府の命で小
平市から小金井市、武蔵野



市まで約六キロの両岸に山桜
が植えられたのが発祥なの
だが、戦中戦後の荒廃に続

いて昭和四十年、淀橋浄水
場の廃止によって玉川上水
は必要なくなり、水流がス
トップ、空堀となった。

これが復活したのは都が
下水高度処理水を流すよう
になった昭和六十一年のこ

と。以後、平成十一年には
『玉川上水歴史環境保全地
域』指定、その一環で桜を

圧迫しているケヤキなどの
伐採を行ったが、わずかに
〇〇区間という。

こつた現状を見かねた
人たちが「自分たちで出来
ることだけでも」と、平成

八年五月、『名勝ノ小金井
桜に親しむ会』(石田精一
代表世話人)を発足させ、

続いて平成十二年十二月に
『名勝小金井桜を守る会』
が結成された。両会とも同

じ思いの人たちの輪を広げ
て小金井桜の維持、育成、

写真展などを通じて市民へ
の啓発活動、行政への働き

かけなどを推進している。
この一環で今回、冊子が
刊行された。語り手は関野

長寿会会長の岡部文代さん
(七九)、会員の杉山義男さん
(九〇)、島田フミさん(八八)の

三人。冊子をめぐると。
『お花見の全盛期は大正
初めから昭和十二年の支那

事変のころまで』
「土手はほとんど隙間が
ないほどお客さんが座って

いた。子どもがその間を歩
いて空きビンをもつ。サ
イター三銭、ビールびん四

銭、一升びん五銭になり、
結構いい小遣いになった」
「筵(むしろ)一枚いく

らで貸したり、玉川上水を
流れてくるビンを網ですく
って小遣いかせぎしてだ」

「縄張りなどというものは
なく、その辺のどこでも
茶店が出せて、近くの農家

が食べ物を売っていた」

「当時は川の流れがとて
も急で、中折れ帽を風で飛
ばされた人が川に飛び込み

追っかけていき、それを助
けようとした人がまた飛び
込み、その日は一日で九人

が飛び込み、酔っぱらって
着物を着たままですからみ
んな流されてしまい、境橋

の揚場のあたりに揚がりま
した。次の日には五日市街
道を大きな木の箱を積んだ

リヤカーが九台並んで火葬
場へ向かい、みんなそれを
見に行きました」

「人喰い川とかいって自
殺の名所になったです」
「ホテルは戦後もずいぶ

なりました」
「新小金井橋までは雪洞
(ぼんぼり)をつけ、それ

からこつちは裸電球を桜に
ずっとつけて夜桜を楽しん

だのです」

などなど、一読、民話の
世界に入ったような思い出
話が次々と語られている。
千部発行。関係者や機関
に配っているが、頒価三百

円(送料別)で一般市民も
入手できる。

申し込みは東町三の四の
一〇の藤村英明代表世話人
(電話・FAX〇四三二一
三三局〇四八三番)へ。

かつては東日本一の桜の名所といわれた東京都小金井市の小金井桜。その苗木は江戸時代、茨城県岩瀬町の桜川と奈良県の吉野山から取り寄せたもの。大正時代には、小金井桜の苗木が、岩手県北上市に贈られ、今では東北一の桜の名所になった。この春、そんな桜が取り持つ縁で、茨城、小金井、北上市の市民が、初めて小金井市に集まり交流を深める。小金井桜を通じた桜の三都物語。

茨城・岩瀬 東京・小金井 岩手・北上

明治時代の小金井桜の
きわい「風俗画報」1
896(明治29)年より

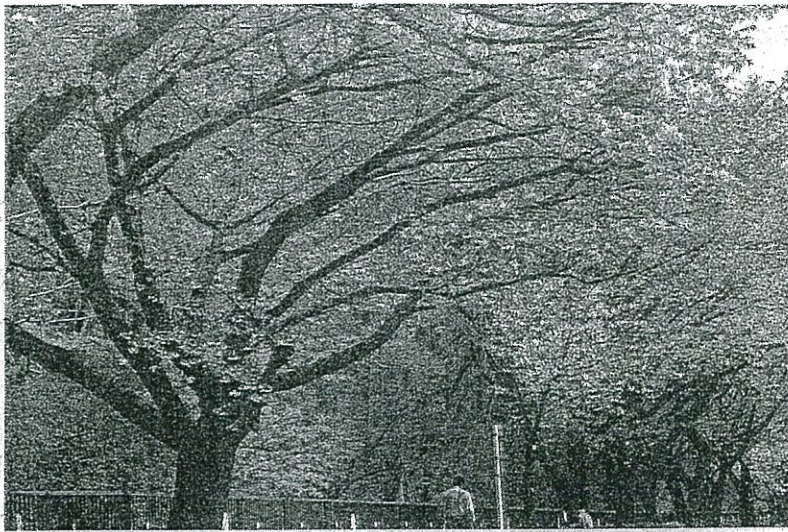


石田清一さん

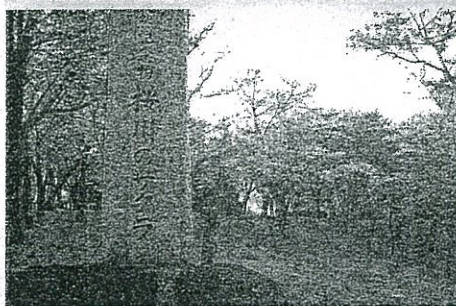
当時、桜の全国的な名所だった奈良県・吉野山と茨城県・桜川(岩瀬町)からヤマザクラの苗木を取り寄せて植えたといふ。その後の小金井桜は、江戸から明治にかけて、江戸随一の桜の名所として知られた。一九二四(大正十三年)には国の名勝に指定された。ところが戦後、五日市街道の拡張や六五(昭和四十)年の玉川上水の通水停止などで、桜並木は荒廃。寿命で枯れる木も目立つてきた。石田さんらが小金井桜の保存・復活に取り組み始めたのは、九六(平成八)年、小金井市で育成中だ。

桜の交流 花開く

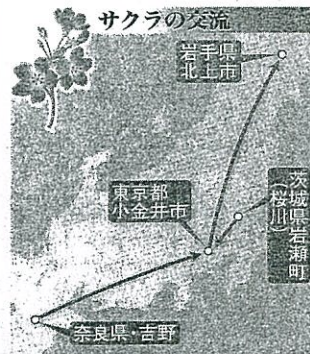
同じころ、北上市の公園「展勝地」から小金井市に小金井桜の現状について問い合わせがあった。一九二二(大正十一年)日本を代表する桜の名所に「小金井桜」の苗木約十二本を贈るようになった北上市。開園八十周年を迎え「本家」を調べていたのだ。



④小金井桜は、古来より日本人に愛されてきたヤマザクラ。微妙な色の違いが美しい＝東京都小金井市で、昨年4月撮影



⑤謡曲「桜川」の舞台になった桜川の桜。平安時代からの名所＝茨城県岩瀬町で、2000年4月撮影 ⑥岩手県北上市の展勝地公園の桜並木。小金井桜は奥の山すそに広がる＝北上市提供



磯部稲村神社境内で行われた町民との交流＝岩瀬町で、2000年4月撮影

石田さんは「今年の桜の開花は異常に早い。小金井桜のヤマザクラは、ソメイヨシノよりは遅いけれども、交流会でもつかどうかと気をもんでいる。

★ ★ ★
小金井桜へは、JR武蔵小金井駅または武蔵境駅、西武新線小金井駅などから徒歩二十三分。開花状況の問い合わせは、近くの都立小金井公園管理事務所(電話042(3)885561)へ。

文・小園智宏/写真・錦山英次/紙面構成・後藤佳則

小金井桜が結ぶ縁

茨城、岩手の「名所」と市民交流

小金井、桜川（茨城県真壁町）、北上（岩手県北上市）一。関東、東北を代表する桜の名所三か所の市民交流会が来月五日、小金井市で実現する。桜川から小金井、そして北上へと苗木が継承されたため、国の名勝・小金井桜にとって、桜川は本家、北上は分家にあたる。予想外の早い開花で、小金井桜は葉桜になってきたが、「名所の系譜」が縁となった二市一町の交流は、これから花を咲かそうとしている。



▲桜川、北上との橋渡し役になった玉川上水沿いの小金井桜

保存活動をきっかけに

小金井桜は、玉川上水の河岸約六キロにわたるやなぎの並木のこと。徳川幕府が八代将軍・吉宗の時代、奈良・吉野山と桜川から桜の苗木を取り寄せ、植えたのが起源とされる。今では小金井公園のメダリストの方が有名だが、かつては関東随一の名所と言われ、一九四四年（大正三三年）国の名勝に。そのころ、小金井桜の苗木約千二百本を移植し、北上優勝地が造成された。

しかし、六五年の玉川上水の通水停止後、ケヤキなど雑木の成長や五日市街道の拡幅などで、小金井桜は存続が危ぶまれている。

その保存のため九六年に発足した「名勝・小金井桜に親しむ会」のメンバーは「昨年、境内の参道に桜並木がある岩

瀬町の桜川磯部稲村神社を訪問。昨春には同会と、一昨年に結成された「名勝・小金井桜を守る会」の委員が北上市を訪れ、「北上ぎくらの会」と交流した。

この時、参加者たちは「次は小金井で」と再会を誓い、その約束を果たすため、「親しむ会」代表世話人の石田精一さんら、桜川の関係者も交えた交流会を企画した。実行委員長を務める石田さんは「交流会をきっかけに、小金井桜の保存に向けた大きな一歩ができれば」と心待ちにしている。

当日は、北上ぎくらの会のメンバー約三十五人と、桜川磯部稲村神社の宮司、磯部祐成理さんらが出席。小金井桜を見学後、市総合体育館で記念式典を開く。

北上ぎくらの会副会長の軽石景さんは「我々にとって小金井桜は心のふるさと。保存のためにお役に立てれば」。磯部さんも「小金井桜を接点にして北上の市民とも初めて交流できる。きつと意義深い集いになるはずだ」と期待を寄せている。

平成17年11月11日

国の名勝に指定されている桜並木「小金井桜」の保存に取り組む市民団体が、今年度の並木の樹木調査を実施したところ、桜の枯死に歯止めがかかっていないことが改めてわかった。2002年の調査開始以来、一貫して本数が減少。危機感を募らせる市民団体は、11日に都庁で開かれる「玉川上水に関する意見交換会」で早急な保全を訴える。

市民団体

きょう保全訴え

小金井桜は小金井市などを流れる玉川上水沿いの約6キロにわたる。1737年（元文2年）、吉野山（奈良県）などから取り寄せたヤマザクラの種苗を植えたことが起源とされる。江戸期の紀行文や錦絵で紹介され、花見の名所となった。93年の都調査では112本が確認された。

今回、調査したのは「名勝小金井桜を守る会」。調査は02年から毎年行っており、今年度は7月から8月にかけて、小金井橋（小金井市桜町）周辺の上水沿い約3・7キロの約820本の桜を歩いて調べた。その結果、134本が枯死

止まらぬ枯死

小金井桜 守れ

幹・根腐らすサルノコシカケ

していることが判明。同区間を調査した04年と比べて枯死が10本増えていた。

93年の都調査と比べても、新小金井橋―関野橋間（650メートル）で40本、茜屋橋―小金井橋間（1050メートル）では33本、枯死が増えており、荒廃が進んでいる。

原因として指摘されているのはキノコの存在だ。調査に同行した元信州大教授で日本菌学会名誉会員の林康夫さんが、樹木へのキノコの付着状況を調査。幹や根を腐らせる

コフキサルノコシカケやベッコウタケの付着を確認した。

林さんは「桜の枯れ枝を定期的に切るなどの手入れが必要。放置しておくと、体力のない桜にキノコがどんどん付着し、枯死が加速する」と警告する。

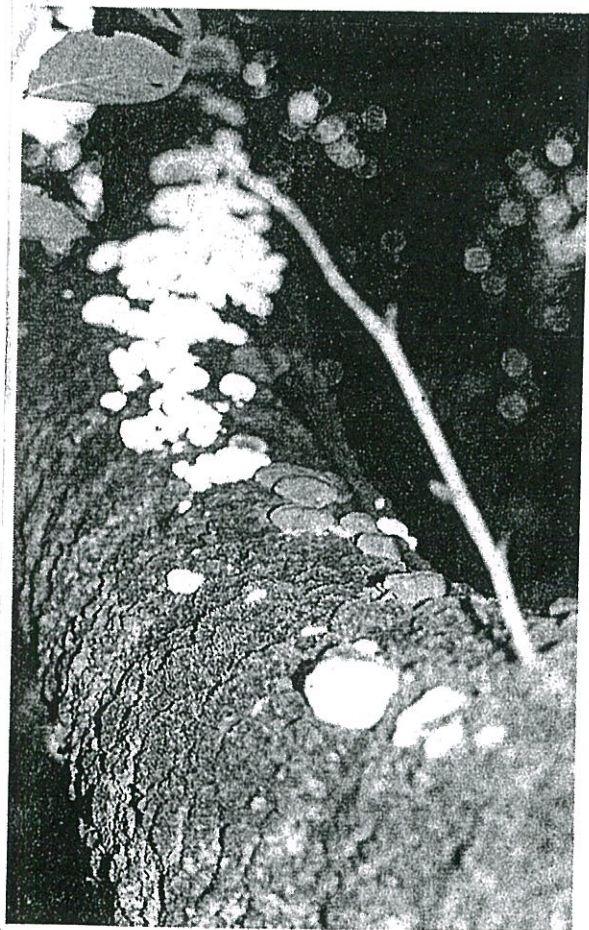
小金井桜は並木のケヤキなどが日光を遮ったり、排ガスの影響を受けたりして本数が減り続けている。11日の都庁での意見交換会では、同会のほか、「名勝―小金井桜に親しむ会」「小金井公園桜守の

会」などの関係者も出席する。

「名勝小金井桜を守る会」

代表世話人の藤村英明さん（70）は危機感が裏付けられた。桜の枝切りなどの手入れは市民の手に負えない面もあり、行政が主体的に保全に取り組んでほしい」と話している。

キノコが着し、縮み、命を失う原因となっている



岩手・北上市⇨玉川上水

「小金井桜」が里帰り

「小金井桜」の名で知られる小金井市・玉川上水の桜並木の「子孫」に当たる桜の苗木が、岩手県北上市から里帰りした。苗木1本が小金井市に贈られ、うち3本が両市の関係者の手で4日、上水脇の遊歩道に植

寄せ、玉川上水の両岸に植えたのが始まり。しかし最近では車の排ガスなどの影響で枯れていく桜が目立ち、地元の市民グループ「名勝 小金井桜の会」などが保存に取り組んでいる。この日の植樹には、小金井市の稲葉孝彦、北上市の伊藤彬の両市長らが参加。伊藤市長は「大正時代の(小金井の)ご厚意に応えられほっとしている。立派な花を咲かせてくれればうれし

「子孫」の苗木植樹

遊歩道 排ガス影響で枯れ

樹された。小金井桜を守ってきた市民らは「大切に育て、花が咲くのを見たい」と笑顔をみせた。

小金井桜は江戸時代、小金井の新田開発をきっかけに奈良の吉野、茨城の桜川から山桜の名品種を取り

里帰したのは、大正時代に北上市の「展勝地公園」に植えられた小金井桜から育てられた苗木。以前から交流していた両市の市民グループの活動が実り、本家の小金井桜の復活に、北上市の桜が手を差し伸べるこ

【金田健】



桜を植樹する稲葉孝彦・小金井市長(左)、「名勝 小金井桜の会」の大久保慎七会長(中央)、伊藤彬・北上市長(右)



小金井桜86年ぶり帰郷

東北屈指の桜の名所、岩手県北上市立展勝地公園の「小金井桜」の苗木が小金井市に贈られ、4日、両市長が参加して記念植樹が行われた。大正時代に小金井から贈られた桜の子孫で、衰えが目立つ「本家」を救うための86年ぶりの帰郷。桜並木の保存を願う市民は「名勝復活へのきっかけ」と期待している。

(比留間直和)

記念植樹があつたのは、玉川上水の小金井橋近くの緑道。桜の調査・保存活動を続ける市民団体「名勝小金井桜の会」(大久保慎七会長)と小金井市が共催した。

小金井桜は江戸時代中期の1737(元文2)年、奈良・吉野などから取り寄せたヤマザクラを玉川上水の両岸約6キロに植えたのが始まりだ。1924(大正13)年には国の名勝にも指定されたが、近年、ケヤキや雑木の繁茂による日照不足や排ガスなどで毎年10本前後が枯れている。都教育庁によれば、昨年夏時点で枯れずに残っていたのは900本余りという。

一方の北上市。1921(大正10)年の展勝地開園の際、計1200本の小金井桜と苗木が小金井市から贈られ、今も約80本の小金井桜が毎年美しい花を咲かせる。

「本家」の窮状を救うべく、01年の開園80年記念式典で「北上さくらの会」会長の伊藤彬・北上市長が、稲葉孝彦・小金井市長に苗木の目録を贈



⑤北上市立展勝地公園で毎年美しく咲く小金井桜(北上さくらの会提供) ⑥帰郷した小金井桜を植える。(左から)稲葉孝彦・小金井市長、「名勝小金井桜の会」の大久保慎七会長、伊藤彬・北上市長＝4日、小金井市桜町1丁目で

呈。その後、苗木の準備が整ったことから「帰郷」が実現した。

今回、北上市から贈られた桜は11本。この日植樹された5本のほか、予備として5本が市内の造園業者に預けられ、1本が市立小金井保育園に植えられた。高さ4～5メートルあり、「来年、いくつかは花をつけるのでは」(造園業者)という。

記念植樹であいさつに立った稲葉・小金井市長は、北上市への感謝を述べ、「この桜が大きく成長するのを市民とともに見守っていきたい」と語った。

伊藤・北上市長も「86年前の厚意に応えることができて、ほっとしている。ぜひ大切に育ててほしい」と応じた。

植樹のあと、伊藤・北上市長は「苗木は100本以上用意しており、要請があればまた提供したい。北上市内でも様々な場所に植えていきたい」と、小金井桜を通じた交流をさらに進める考えを示した。

「名勝・本家救え」岩手から苗木11本

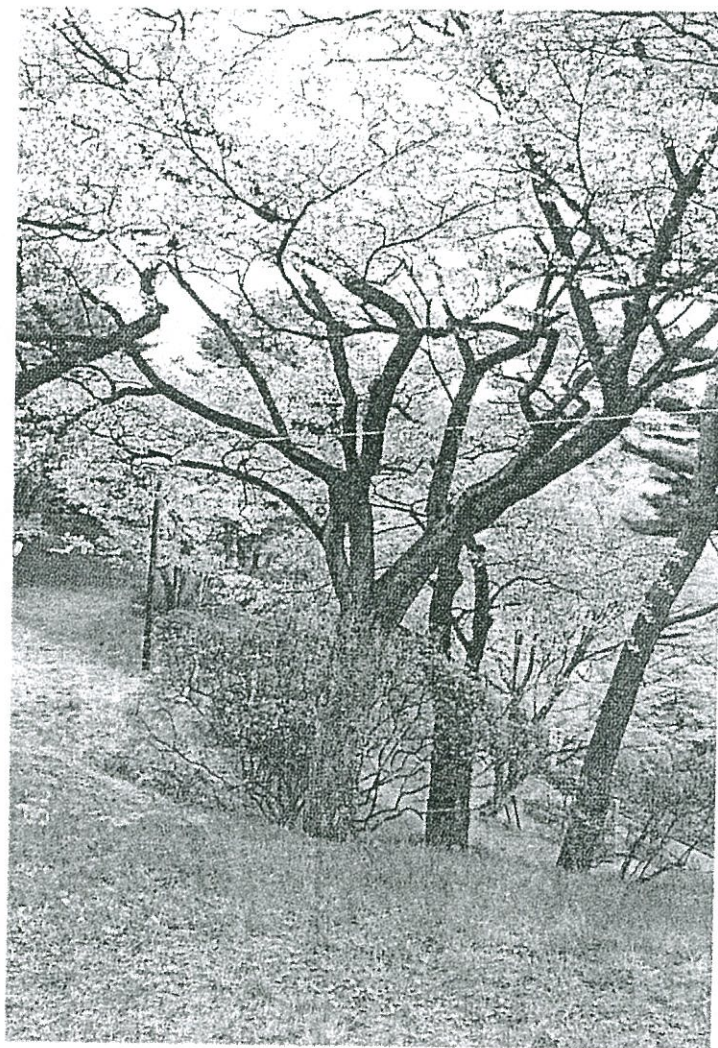
むつしのHOKAYO

岩手県北上市から玉川上水の並木

「小金井桜」

「小金井桜」の名で知られる小金井市・玉川上水の桜並木の「子孫」に、岩手県北上市から里帰りを果たした。これを記念して市民グループ「名勝！小金井桜に親しむ会」と「名勝小金井桜を守る会」は2月中旬、市民講座を企画し、参加

里 帰 り



岩手県北上市の展勝地公園で咲く「名勝！小金井桜」の石田精一さん提供

両市民の会が交流で実現

来月記念講座企画

者を募っている。小金井桜は江戸時代、新田開発を機に奈良の吉野、茨城の桜川から山桜の名品種を取り寄せ、玉川上水の両岸に植えたのが始まり。この桜の苗木1200本が、大正時代、北上市の「展勝地公園」の造成に使われ、いまでも80本が美しい花を咲かせているという。

小金井の「親しむ会」などは、展勝地公園の桜を見学するなどして現地の「北上さくら会」(会長、伊藤彬・北上市長)と交流。01年には同市が小金井市の稲葉孝彦市長を招待し、北上で発芽させた小金井桜の苗木を里帰りさせる計画が決まった。「親しむ会」の石田精一代表は「小金井の桜は毎年10本ほどが枯れていく。北上からの苗の里帰りは心強い」と話し、苗を植える行政手続きを進めている。

市民講座は2月17日、24日、3月3日の3回で、場所は小金井市前原町3の前原集会所施設学習室。北上市の伊藤市長のほか、江戸東京博物館(墨田区)の竹内誠館長、日本さくら会の樹木医、浅田信行さんが、小金井桜の文化的意義や現状などを語る。

3回連続の聴講で定員は50人、参加費1500円。希望者は2月5日までに、往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号を明記し、「名勝！小金井桜」自主講座事務局、石田精一さん(〒184-0015 小金井市貴井北町3の9の18)まで申し込む(当日消印有効)。多数の場合は抽選。問い合わせは石田さん(042-3333-0300)。

【金田健】

名勝復活期待かけ植樹

「小金井桜」

北上市長「今後も提供」

東北屈指の名所、北上市立展勝地公園の「小金井桜」の苗木が東京・小金井市に贈られ、4日、両市長が参加して記念植樹が行われた。大正時代に小金井から

贈られた桜の子孫で、衰えが目立つ「本家」を救う。記念植樹があったのは、玉川上水の小金井橋。市民は「名勝復活へのき

あり、「来年、いくつかは花をつげるのでは」「(造園業者)といひ、今、北上市から贈られた桜は11本。この目植樹された5本のほか、予備として5本が市内の造園業者に預けられ、1本が市立小金井保育園に植

植樹のあと、伊藤・北上市長は「苗木は100本以上用意しており、要請があればまた提供したい。北上市内でも様々な場所に植えていきたい」と、小金井桜を通じた交流をさらに進める考えを示した。

07.11.5(月)「朝日新聞(岩手版)」

帰郷した小金井桜を植える。(左から)稲葉孝彦・小金井市長、「名勝小金井桜の会」の大久保慎七会長、伊藤・北上市長。4日、東京・小金井市桜町十丁目



07.11.5(火)「毎日新聞(武蔵野版)」

岩手・北上市⇨玉川上水

「小金井桜」が里帰り

「子孫」の苗木植樹

遊歩道 排ガス影響で枯れ

「小金井桜」の名で知られる小金井市・玉川上水の桜並木が、里帰りを始めた。この日の植樹には、小金井市の稲葉孝彦市長、北上市の伊藤市長、両市長が参加し、北上市の伊藤市長は「大正時代に小金井から贈られた桜の苗木が、里帰りした。苗木11本、目立ち、地元市民が小金井市に贈られ、うち3本が両市の関係者の手で4日、上水沿いの遊歩道に植



07.11.6(火)「河北新報」

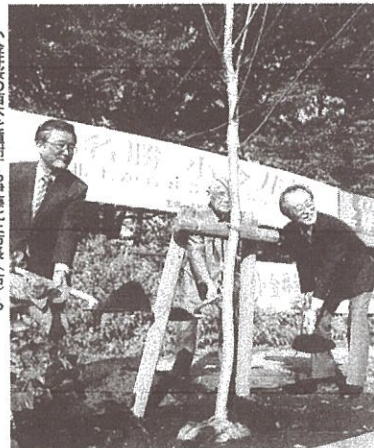
北上市展勝地公園から「本家」東京・小金井へ

「子孫」の桜故郷を飾れ

東北有数の桜の名所として知られる北上市展勝地公園の「小金井桜」の苗木が、本家の東京・小金井市に贈られ、4日、両市長が参加して記念植樹が行われた。大正時代に小金井から贈られた桜の苗木が、里帰りを始めた。苗木11本、目立ち、地元市民が小金井市に贈られ、うち3本が両市の関係者の手で4日、上水沿いの遊歩道に植

苗木11本寄贈

並木復活に協力



小金井桜の苗木を植樹する伊藤・北上市長(右)ら。4日、東京・小金井市

長つが植樹する。
北まきくらの会の幡石昇事務局長 60 は「市民と行政、園芸業者が力を合わせ、小金井桜をふさぐの地に帰すことができた。小金井市民も心待ちにしているから、これを機に両市民の交流を深めていきたい」と話した。

東北有数の桜の名所、岩手県北上市の展勝地公園で大正時代の開園時に植えられた「小金井桜」の苗木が11月、86年ぶりに本家・東京都小金井市に里帰りする。江戸時代、関東随一の桜の

名所と謳われた同市、玉川上水の小金井桜は、都市化の影響で衰退。本家の危機を知った北上市が、「開園時の里帰りをしたい」と名所復活に名乗りを上げた。

(田中タケ)

小金井桜 86年ぶり里帰り

10月20日、「名勝 小金井桜の会」(大久保慎七会長)のメンバー約20人が、小金井市文化財センターに集まった。議題の1つは、11月4日に玉川上水で行われる里帰り苗木の植樹祭。メンバーの表情は一概に明るい。石田副会長(77)も「一日も早く、『名勝小金井桜』が復活してくれれば上と笑顔を見せたが、これまでの道のりは長かった。小金井桜は、玉川上水沿いの約6*に1500本近くあったという。ところが、五日市街道の非ガスや昭和40年以降の玉川上水の通水停止などによるケヤキや雑木の繁茂で、純粋な「ヤマザクラ並木」は衰退の一途。雑木が桜並木に覆いかぶさる、名勝の景観は見られなくなっていた。

同会によると、平成5年時点約1100本が確認されたが、毎年10本程度が枯れているとされ、今では1000本を下回る(石田副会長)。現状を憂い、復活を願う同会などは長年、保存の道を探っていた。こうした中、平成12年、北上市から郎報が。

「大正10年に開園した展勝地公園に、小金井桜200

本と苗木1000本を植えた記録が残っています」石田副会長も小金井市も初見だった。石田副会長が北上市を訪ねると、「本家が来た」と温かい歓迎を受けた。展勝地公園の陣の丘に移植された小金井桜は約80本が咲き誇り、「北澄の香輪」の愛称で、北上市民に親しまれていた。

翌年には、本家の現状を知った北上市の「北上さくら会」の伊藤市長



④岩手県北上市の展勝地公園で咲く小金井桜
⑤86年ぶりに重なりする苗木を見学する小金井市民ら
⑥4月、岩手県北上市(ともに名勝 小金井桜の会提供)



本家の危機…岩手・北上の“分家”から苗木

ん(56)が育てていた。小金井桜の枝を採取・接ぎ木、約5年かけて約200本が移植可能な3、4*の高さまでになった。菅原さんは「私も11月の植樹には(小金井市へ)行きますよ」と自分が育てた苗木の大役を喜ぶ。

小金井桜の会のメンバーらは4月、展勝地公園を訪れ、大切に守られていた小金井桜を見学。その後、里帰りする苗木の生育地を訪ねた。メンバーは約4*にまで育った苗木を目の当たりにし、感慨を新たにした。

石田副会長は「平成12年に北上に行き、翌年、里帰りが決まった。それから7年。ようやく実現します」と目を潤ませる。

伊藤市長も「記念式典で約束した小金井市への里帰りがやっと実現できる」と胸をなでおろし、「これを

玉川上水沿いに咲く小金井桜(名勝 小金井桜の会提供)
三東京都小金井市



■小金井桜 ヤマザクラの一種。徳川8代将軍・吉宗の時代、新田開発を機に奈良の吉野山や茨城の桜川からヤマザクラの苗木を取り寄せ、武蔵野の玉川上水に沿って植えられた。浮世絵師の歌川(安藤)広重の「富士三十六景 武蔵小金井」などにも描かれた。江戸時代は桜の名所として全国に知られ、大正13年に指定された。

さっかげに、友好の花が咲き続ければ」という。

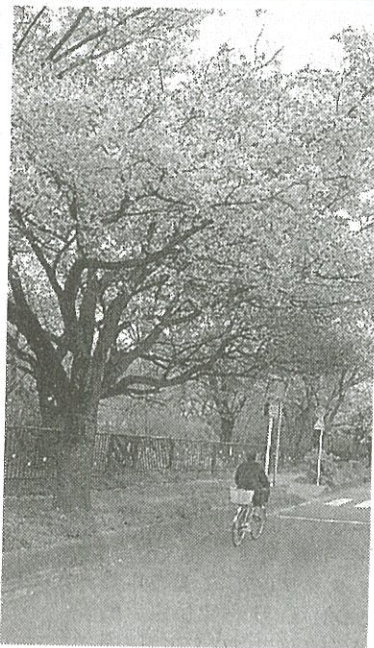
里帰りする小金井桜は10本で、このうち5本が11月4日、玉川上水の小金井橋付近の遊歩道沿いに植樹される。

「今回の里帰りを第一歩として、江戸時代から先人が営々と築いてきた『名勝 小金井桜』を再生し、次代へ継承していきたい」と、大久保会長(87)。名勝、小金井桜再生の第一歩が始まる。

小金井桜 * みんなで保存

市民2団体が統合へ

新たな参加者募る



小金井市の玉川上水沿いに植えられたヤマザクラ「小金井桜」について調査・保存活動をしてきた二つの市民グループが統合されることになり、16日、新団体の発足総会

をまとめ、官民で保存の

を開く。関係者は、新しい市民の参加を呼びかけている。統合を決めたのは、96年から並木の歴史などを調べてきた「名勝！ 小金井桜に親しむ会」(石田精一代表)と、00年以降、樹勢調査などをしてきた「小金井桜を守る会」(藤村英明代表)。

新しい会の発足総会は午前11時から、小金井市緑町3丁目の市文化財センターで。問い合わせは小沼さん(042・301・5132)へ。

親しむ会の石田代表が守る会の会員になってい

るなど、これまでも交流しつつ並木の保存運動を進めてきた。今年11月、大正時代に小金井桜が贈られた岩手県北上市から苗木を「里帰り」させる計画があり、これを機に統合することにした。

小金井桜は玉川上水沿いの6キロに約千本があるとされる。写真が、周囲のケヤキが伸び、根元を人に踏まれるなどして本数が減っている。上水を管理する都も保存計画

機運が高まりつつある。守る会の藤村代表は「新たな参加者も募り、組織を大きくして運動を広げたい」と話す。

むさしの

武蔵野支局

〒180-0006

武蔵野市中町1-9-5

第一中央ビル5階

☎ 0422-51-5531

fax 0422-55-6568

mail musashino-shikyoku@asahi.com

立川支局

☎ 042-524-5104

東京総局

☎ 03-3508-0390

購読・配達のご用は

☎ 0120-12-0843

平日 7:00~21:00

休日 7:00~17:00

広告のご用は

☎ 03-3547-5552

折り込みのご用は

☎ 042-540-1971

きょうの天気

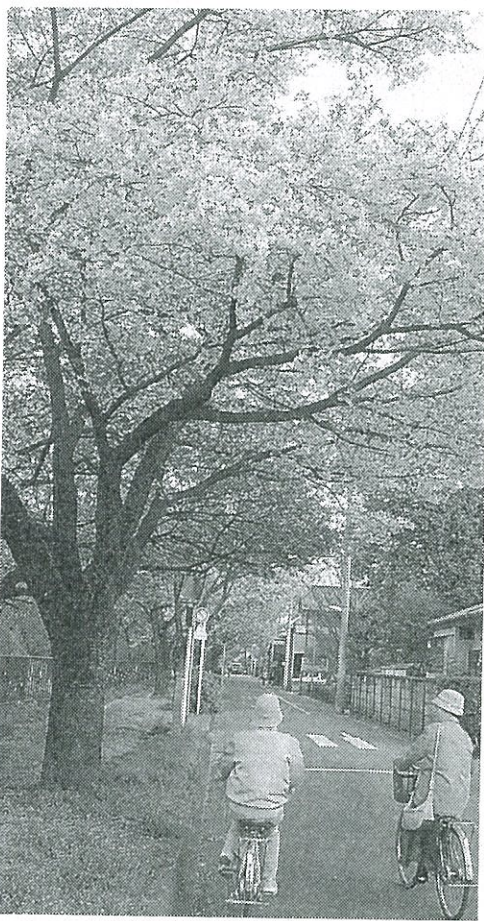
6~12時 降水確率 12~18時

0	東京	0
0	立川	0

江戸中期、大岡越前守忠相の命で植樹

小金井市の玉川上水の両岸に植えられ、国の名勝に指定されている小金井桜が年々、衰えている。今年も見ごろの季節を迎えたが、市民による「名勝小金井桜を守る会」がまと

めた昨年分の調査報告書によると、この13年間で141本の桜が枯れてしまった。会では、新たに苗を植える「補植」の必要性を訴えている。(松村康史)



見ごろとなった小金井桜＝
小金井市の上水桜通りで

小金井桜は、武蔵野の新田開発が進んだ江戸時代中期、名奉行で知られる大岡越前守忠相の命で植えられたと伝えられる。並木は小金井橋を中心に、上流の小平市から武蔵野、西東京両市まで約6km続く。

13年で141本枯れ「守る会」補植提案

6日から桜まつりが始まる都立小金井公園はソメイヨシノの名所だが、小金井桜はヤマザクラ。花は純白から淡い紅色までさまざま、新しい葉と共に開くため、華やかなソメイヨシノとは違った奥深い美しさを感じしめる。

「守る会」は02年から毎年、桜を一本ずつ観察して「樹勢調査報告書」をまとめている。それによると、93年時点で並木の主要部分に823本あったとされる桜は、現在682本。毎年10本前後が枯れている。昨夏はほとんどすべての木で、葉が葉脈を残してハバチの幼虫に食い荒らされていた。枯死を助長する腐朽菌も、46%の木で見つかった。それでも桜はこの春、いつものように花を咲かせ、守る会の人たちは胸をなで下ろした。

名勝「小金井桜」ピンチ

守る会代表世話人の藤村

英明さん(71)は「苗を育て

て補植しないと、いつかは

並木がなくなってしまう」と心配する。今回の報告書

では、新しい木が枝を伸ばす空間が確保されている場所として、陣屋橋周辺など

3カ所を補植の「適地」として提案した。

今秋には、大正時代に小

金井桜の苗木が植えられた

岩手県北上市から、桜を

「里帰り」させる構想もある。都が管理する国の名勝

であるため、守る会など3

団体が協力し、補植の許可

を求めて活動している。

玉川上水都が保存計画

「小金井桜」景観回復へ

都水道局は、国の史跡「玉川上水」(武蔵野、三鷹市など9市4区)の保存管理 全方法の指針となるもの 計画を策定した。今後の保で、同局は「これまでの対



武蔵野市から小平市にかけての玉川上水沿い約6キロにわたって約1000本が並ぶ「小金井桜」。衰えが目立ち、保護の必要性が指摘されている(2005年4月)

策は損壊個所の応急処置にとどまってきたが、今後は計画的に整備したい」としている。

玉川上水は江戸市中の水不足を補うため、1654年に完成。多摩川を水源とし、羽村市の取水口から西東京、小金井、武蔵野、三鷹市などを流れ、新宿区まで全長約43キロに及ぶ。地下部分を除く約30キロは

2003年、「近代の水利技術が生き続ける遺構」として国の史跡に指定されたこともあり、同局で、保全に関する統一的な基準作りを進めていた。

計画では、対象区間を上流部、中流部、下流部に分けて、それぞれに改修や保

存の方針を策定。

特に中流部は「のり面崩壊の可能性大」として、修復の必要性を指摘している。上水に沿って約1000本のヤマザクラ「小金井桜」が並ぶ約6キロの区間では、枯れ木が増えるなど衰えが目立っているとして、枝切りなどで景観を回復させる方針を掲げている。

また、保全だけでなく、同上水を有効に活用するための事業の重要性も強調。①橋などからの眺望を確保するための樹木の伐採②資料閲覧や活動場所の設置③柵のデザインの統一などの必要性を説いている。

史跡「玉川上水」 の保存を 委員会が中間報告

史跡「玉川上水」の保存管理のあり方などを検討している「玉川上水保存管理計画策定に関する委員会」（会長＝篠原修・政策研究大学院大学教授）は4日、保存管理計画書策定に向けた中間報告をまとめた。水路の護岸崩壊が危ぶまれる玉川中流部を中心とした保存整備のほか、小金井のヤマザクラなど名勝指定区間を

中心とした地区を重点整備地区と位置づけ、10年間の目標とした整備活用計画の策定を求めている。また、玉川上水の関連資料など様々な情報や場を提供するための「ビジターセンター」の整備を提言した。今後は都民へのパブリックコメントを実施し、これを基に最終報告を年度内にまとめる予定。これを受け、都は来年度、学識経験者等からなる「整備活用計画策定委員会」（仮称）を立ち上げ、計画の具体的な中身を検討する。

玉川上水は羽村、昭島、小金井、杉並など9市3区を通過する全長約43キロに及ぶ水路で、江戸時代初期に竣工した。この間、その維持管理に民間を含めた数多くの団体がかわつてきたが、関係団体が保存管理に共通認識を持ち、取り組みを推進する必要があるとし、都水道

局を中心に教育、建設、産業労働、環境、都市整備の関係局と羽村市が昨年9月、学識経験者9人で構成する委員会を設置。保存管理計画の策定に向けて、整備活用の具体的なあり方などを検討してきた。

中間報告の整備活用方法によると、玉川上水の導水路・分水施設などの土木施設・遺構の崩壊を未然に防ぐ工事のほか、名勝「小金井（サクラ）」のサクラ並木の復活をめざし、ケヤキなどの伐採、ヤマザクラの補植などに取り組みが必要があるとしている。さらに、土木施設や遺構を間近で体験したり、玉川上水にかかわる情報を得るなど、様々な活動の場を提供できる「ビジターセンター」施設や親水空間の整備を求めた。

このほか、玉川上水のシンボルマークの設定やイベントの開催、市民講座・体験学習の実施などを提言している。行政内部の体制では、関係6局と関係9市3区が緊密な情報交換や意見調整が行えるよう体制強化を図る必要があるとしている。

掲示板

営業部

小金井桜 86年ぶりの里帰り 北上市から小金井市へ

11月4日 武蔵小金井駅から程近い玉川上水の小金井橋付近の緑道で、岩手県北上市から小金井市に送られた桜の苗木の植樹が、両市長が出席して行われました。

この桜は、大正10年に小金井市から北上市（展勝地公園）に贈られた「小金井桜」の子孫で、近年排気ガス等の影響で衰えが目立ってきた小金井桜の窮状を知った北上市が「小金井桜の歴史を守るために苗木をお贈りする」ということで、今回の植樹が行われました。

最寄の武蔵小金井駅は、大正13年4月に小金井桜のお花見のための臨時停車場として開業した駅で小金井桜とは縁が深く、開業80周年を機に平成18年4月から駅の発車メロディーを「さくら」に変更しました。

また、地元の駅としてこれまでも小金井桜の保存会等の方々との交流があったことから、植樹の当日は、山田武蔵小金井駅長や伊藤三鷹地区長（前武蔵小金井駅長）をはじめ地元関係者などで、北上市長を団長としたご一行さまを「お帰りなさい！ 岩手県北上市からの里帰り 名勝小金井桜」の特製横断幕とともにお出迎えしました。

北上市の皆様は、このお出迎えに大変感激され、駅としても両市の親善の一端を担うことができました。皆さんも来春には是非ご家族で、「名勝小金井桜」のお花見を楽しまれてはいかがでしょうか。そして、みちのく三大桜名所の岩手県北上市の展勝地公園も訪ねてみてください。多分とってもお得な「びゅう商品」が発売されていると思います。

みちのく三大桜名所は？ 北上展勝地公園・角館・弘前公園



心を込めてのお出迎え



左から山田武蔵小金井駅長、「名勝小金井桜の会」大久保会長、伊藤北上市長、鷺山東京学芸大学学長、伊藤三鷹地区長



植樹する左から大久保慎七名勝小金井桜の会会長、昆雅幸北上市東京事務所長、稲葉孝彦市長

北上市から里帰り

栗山公園で桜の植樹式

昨年十一月、岩手県北上市の「北上展勝地公園」開設に伴い八十六年前の大正十年（一九二一）に移植された小金井桜ヤマザクラの後継樹が里帰りし、玉川上水など市内に十本が植えられ話題になったが、今度は市制五十周年記念として北上市から五十本の苗木が届いた。

この植樹式が六日午前十一時から、中町二丁目の市立栗山公園で行われた。

出席したのは稲葉孝彦市長と大久保慎七名勝小金井桜の会会長、伊藤正義小金井公園桜守の会会長や関係者ら約二十人。北上市東京事務所の昆雅幸所長もかけつけ、高さ三メートルに育ったヤマザクラの苗木一本を園内の中央に「いねい」に植え、土をかけた。

稲葉市長あいさつに続いて昆所長が、「今夏の北上市開催のみのちの芸能まつ

りには小金井市の貴井ばやしの出演を得て盛り上がった。小金井桜を「縁にますます広い交流を深めましよう」と述べた。また、大久保会長が「好天に恵まれ、里帰りして今日植えられた小金井桜を大事に育て、両市のさらなる発展を祈る」としめくくり、列席者もスコップを手にした。

苗木はこのほか、市立二小や二中、緑中、東京学芸大学、法政大学、国際基督教大学高校、都立小金井工

業高校、武蔵野東中学校、市立公園などに植わった。

平成19年(2007年) 4月19日 木曜日

産 経 新

玉川上水本格保存へ

都水道局「小金井桜」の美観回復

樹木の巨大化などでの面崩壊の危険個所が増えている玉川上水（全長約43キロ）を守ろうと、都水道局は本格的な保存管理計画を策定した。「小金井桜」で知られるヤマザクラ並木（小金井市を中心に約6キロ）の樹勢と美観回復に向けた取り組みを打ち出し、柵のデザインの統一、眺望確保のための樹木の剪定など、観光資源としての活用策を盛り込んでいる。

玉川上水は、江戸中心部への給水を目的に、1654年に作られた上水路で、多摩川上流の羽村取水堰から新宿区の四谷大木戸までを結ぶ。近世の水利技術が今日まで生き続けている点が高く評価されており、平成15年には国の史跡に指定された。

計画は、上流部、中流部、下流部とエリアごとに策定され、のり面の崩壊の危険性や現状を詳細に分析。「小金井桜」の区間については、「名勝指定区間」として、ヤマザクラを圧迫しているケヤキの伐採、後継樹の育成、サクラの生育回復のための土壌改良の必要性に触れている。

玉川上水の歴史的価値と保存の必要性を理解してもらうため、関連資料が閲覧できるビクターゼンターの設置、柵のデザインの統一、解説板やトイレ整備にも言及。橋や周辺道路からの「眺め」が良くなるよう、視界をさえぎる樹木の伐採も提言している。

都水道局は「文化庁や各自治体などと連携して、今年度中に整備活用計画の策定に着手する」としている。

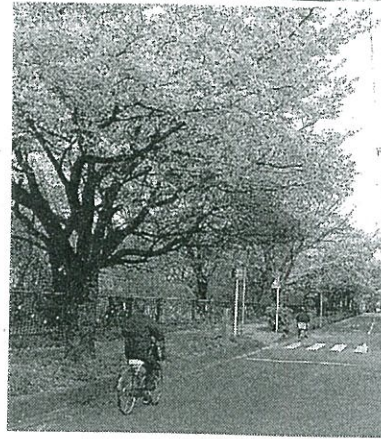
計画は、上流部、中流部、下流部とエリアごとに策定され、のり面の崩

「小金井桜」整備に重点

玉川上水の
保存・管理 都が計画書策定

国の史跡に指定され、散策路などとして多くの人に親しまれている玉川上水の保存と管理の指針となる都の計画書がこのほどまとまった。多摩川の水を江戸市中へと運んだ水道施設としての歴史的価値を伝えていくとともに、人々の憩いの場となっている名勝「小金井桜」を優先的に整備していく方針が盛り込まれた。

(石川幸夫)



玉川上水は、江戸初期、導水路。多摩川中流の羽の1654年に造られた「村取水口（羽村市）」から

四谷大木戸（新宿区）までは上部を開け放した水路で、江戸市中は暗渠だった。現在でも上流の一部は水道施設として使われている。開削350年となった03年に国の史跡に指定された。

計画書は、都水道局が有識者らによる策定委員

今年も咲いた小金井桜。左奥に玉川上水が流れている川小金井市で

会の提言を受けて作った。

史跡である玉川上水は延長が40キロを超え、関係自治体も3区9市（渋谷区、世田谷区、杉並区、三鷹市、武蔵野市、西東京市、小金井市、小平市、立川市、昭島市、福生市、羽村市）に及ぶため、各自治体や都の関係

部局が共通の認識を持つて取り組む必要があるという。今後は計画書にもとづいて取り組みが進められる。

計画書では、玉川上水を上流部と中流部、下流部と区間ごとに分け、それぞれの現状と特性を踏まえて保存管理の方針が決められた。なかでも中

流部には国の名勝「小金井桜」があり、「重点整備地区」と位置づけられた。「小金井桜」は、小金井市などを流れる玉川上水の両岸に約6キロわたってヤマザクラの並木が続く市民の憩いの場。江戸中期に、名奉行として知られる大岡越前守忠相の命で植えられたと伝え

られている。しかし、最近植樹の衰えが見られ、地元でも心配する声が多くなっている。

都水道局は「名勝区間は優先的に整備をしていきたい。具体的な方法については、今後、都の関係部局や地元自治体と連携しながら決めていきたい」としている。

クラのルーツの一つといわれる茨城県岩瀬町の桜川への見学会を開く。

小金井桜は、小平、小金井、武蔵野の三市にまたがる約六・五キロの両岸に約千本のヤマザクラが植わっている。十八世紀前半の徳川八代將軍吉宗の治世に常陸（茨城県）の桜川や大和（奈良県）の吉野山から移植したとされる。

しかしソメイヨシノの進出や、玉川上水が使われなくなつて、手入れされずに枯れてしまつ木が続出。心を痛めた石田さんらが同会

ヤマザクラ守ろう会
15日に茨城・桜川へ見学会
玉川上水沿いの名勝・小金井桜の保存に取り組む、「小金井桜に親しむ会」（石田精一会長）のメンバーが十五日、同地のヤマザ

を組織し、復活、保存に乗り出した。現在も桜川には

約七百本のヤマザクラがあるという。問い合わせなどは石田さんへ電042(332)0368へ。



武蔵野支局

〒180-0006

武蔵野市中町1-9-5

第一中央ビル5階

☎ 0422-51-5531

fax 0422-55-6568

mail musashino-

shikyoku@

asahi.com

立川支局

☎ 042-524-5104

東京総局

☎ 03-3508-0390

購読・配達のご用は

☎ 0120-12-0843

平日 7:00~21:00

休日 7:00~17:00

広告のご用は

☎ 03-3547-5552

折込込みのご用は

☎ 042-540-1971

きょうの天気

6~12時 晴水曜 12~18時

0 0 東京

0 0 川

0 0 立

江戸中期、大岡越前守忠相の命で植樹

小金井市の玉川上水の両岸に植えられ、国の名勝に指定されている小金井桜が年々、衰えている。今年も見ごろの季節を迎えたが、市民による「名勝小金井桜を守る会」がまと

めた昨年度の調査報告書によると、この13年間で141本の桜が枯れてしまった。会では、新たに苗を植える「補植」の必要性を訴えている。

(松村康史)

小金井桜は、武蔵野の新田開発が進んだ江戸時代中期、名奉行で知られる大岡越前守忠相の命で植えられたと伝えられる。並木は小金井橋を中心に、上流の小平市から武蔵野、西東京市まで約6キロ続く。8日から桜まつりが始まる都立小金井公園はソメイヨシノの名所だが、小金井桜はヤブザラ。花は純白から淡い紅色までさまざまで、新しい葉と共に開くため、華やかなソメイヨシノとは違った奥深い美しさ

13年で141本枯れ 「守る会」補植提案

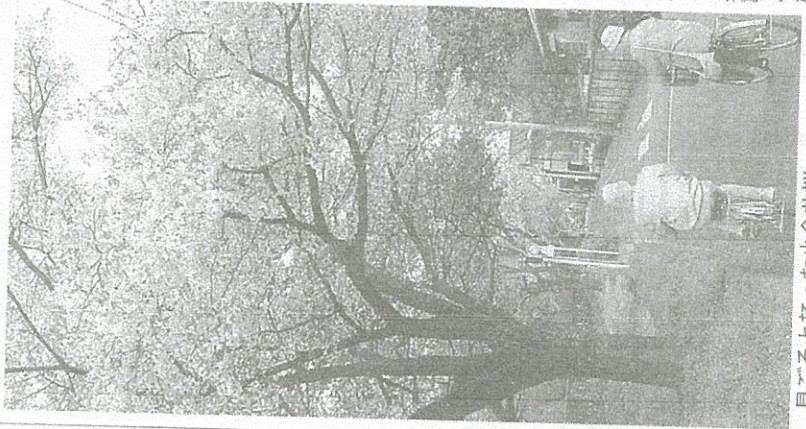
楽しめる。

「守る会」は02年から毎年、桜を1本ずつ観察して「樹勢調査報告書」をまとめている。それによると、03年時点で並木の主要部分に823本あったとされる桜は、現在682本。毎年10本前後が枯れている。昨夏はほとんどすべての木で、葉が葉脈を残してハバチの幼虫に食い荒らされていた。枯死を助長する腐朽菌も、46本の木で見つかった。それでも桜はこの春、いつものように花を咲

かせ、見る会の人たちは胸をなぐらした。

守る会代表世話人の藤村英明さんは「苗を育てて補植しないと、いつかは並木がなくなってしまう」と心配する。今回の報告書では、新しい木が枝を伸ばす空間が確保されている場所として、陣屋橋周辺など3カ所を補植の「適地」として提案した。

今秋には、大正時代に小金井桜の苗木が植えられた岩手県北上市から、桜を「里帰り」させる構想もある。都が管理する国の名勝であるため、守る会など、団体が協力し、補植の許可を求めて活動している。



見ごろとなった小金井桜＝小金井市の上水桜通りで

小金井新聞

THE KOGANEI SHIMBUN



岩手県北上市から里帰りした小金井桜の植わる小金井橋付近で子どもたち（伊藤正義さん写す）

名勝小金井桜を守る 落ち葉回収大作戦

団体と個人ら350人が参加

今年で六回目になる「名勝小金井桜・落ち葉回収大作戦」が一日午前九時から玉川上水沿いの南側、茜屋橋―梶野橋間の約二・七キロ区間で行われた。

これは「毎年春に美しい花を咲かせてくれる小金井桜に対し、枯れ葉の舞い落ちるこの時期に小金井桜の現状を認識し、樹勢調査を兼ね、さらにきれいな街づくり運動と、落ち葉を堆肥として利用するリサイクルの仕組みづくり運動に」と盛り沢山な目的を設けて、市民団体「名勝小金井桜の会」（大久保慎七会長）が中心の実行委員会が主催。

薄曇りのこの日、朱色や黄色、青などそろいのジャ

ンパーを着た各種団体の人たちや、こちらもそろいのトレーナー姿の子どもたちのほか、防寒衣を着込んだ人たちが、クマデや竹ぼうきを使って落ち葉をかき集めて、遊歩道とアスファルト道路をきれいに掃除していった。

事務局の集計によると、参加したのは三十一団体と個人で、総勢三百五十人に上った。この中には地元運出の土屋正忠衆院議員や、西岡真一郎都議、稲葉孝彦市長、市議らもいて一緒に汗を流した。集められた落ち葉はビニール袋五百五十袋。これらはトラックに積んで、近くの大堀農園と大沢農園へ運ばれたが、子どもたちも喜々としてこれを手伝っていた。

多摩を元気にせよ!

夏期講習生募集

第一志望合格主義! めんどくみ100%専任講師制!!

進学教室 0120-15-7766
www.ing-school.co.jp

多摩

貫井囃子 岩手で披露へ

八十六年ぶりに岩手県北上市から里帰りした「小金井桜」が縁となり、小金井市の郷土芸能「貫井囃子」が八月三日、北上市の「みちのく芸能まつり」で披露される。貫井囃子保存会の大沢国栄会長(三〇)は「東北の伝統芸能にひけを取らないようにがんばる」と意気込みを見せている。(北川成史)

小金井桜が結ぶ縁



貫井囃子は江戸時代末期、貫井村(現小金井市)の花火職人らが千歳村(現世田谷区)で祭り囃子を教わり、貫井神社の祭礼に奉納したのが始まり。多摩地区では最も古

い囃子に属し、歯切れの良いリズムが特徴だ。戦後、一時途絶えたが、大

軽快なリズムで踊る貫井囃子!!
小金井市で

北上の伝統芸能祭典に出演

沢会長の父敏夫さん(故人)が一九七〇年に復活させ、保存会を結成した。保存会は国内外で公演を重ね、多くのコンクールで優勝。市の無形文化財にも指定された。今回の公演の縁となった小金井桜は二一(大正十)年、北上市に移植された。本家の玉川上水沿いの桜並木が荒れていることから、北上市は昨年、小金井市に苗木を寄贈。この時の交流会で披露された貫井囃子に北上市関係者が感動し、同市での祭典に保存

会を招くことになった。現在、保存会には三歳から六十二歳までの男女約二十五人が所属。週三回の練習を続けている。このうち小学生を含む十四人が北上市に赴き、屋内外で計三回、貫井囃子を披露する予定だ。

小学生時代から会に参加している小金井市職員の津田絵美子さん(三三)は「東京の伝統芸能を北上の人に知ってもらいたい」と目を輝かせる。

大沢会長は「桜の縁で北上市と良い関係ができた。来年以降も招待されることを目指します」と話している。

みちのく芸能まつりの問い合わせは北上観光協会☎0197(65)0300へ。



◇一九二一の桜並木は、江戸時代か(大正十)年に花見の名所だったが、岩手県北上市に今はケヤキが茂り荒れた移植された「小状態になっていた。

金井桜が四日、故郷の桜並木を再生させるため、彦小金井市長「写真」

八十六年ぶりに東京都小金井市に「帰郷」した。

◇北上市から小金井桜の苗木十一本が寄贈され、両市民が参加して小金井橋近くに植樹した。同橋周辺の玉川上水沿い

で、「厚意に配慮することができてうれしい」と話していた。

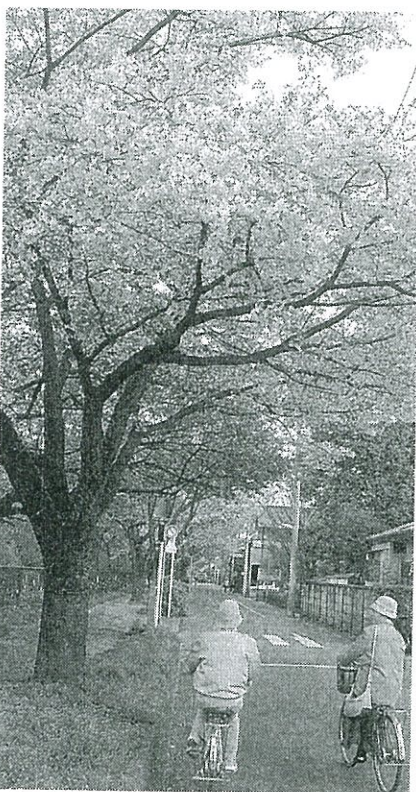


江戸中期、大岡越前守忠相の命で植樹

小金井市の玉川上水の両岸に植えられ、国の名勝に指定されている小金井桜が年々、衰えている。今年も見ごろの季節を迎えたが、市民による「名勝小金井桜を守る会」がまと

めた昨年分の調査報告書によると、この13年間で141本の桜が枯れてしまった。会では、新たに苗を植える「補植」の必要性を訴えている。(松村康史)

名勝「小金井桜」ピンチ



見ごろとなった小金井桜＝小金井市の上水桜通りで

小金井桜は、武蔵野の新田開発が進んだ江戸時代中期、名奉行で知られる大岡越前守忠相の命で植えられたと伝えられる。並木は小金井橋を中心に、上流の小平市から武蔵野、西東京両市まで約6km続く。6日から桜まつりが始まる都立小金井公園はソメイヨシノの名所だが、小金井桜はヤマザクラ。花は純白から淡い紅色までさまざまで、新しい葉と共に開くため、華やかなソメイヨシノとは違った奥深い美しさを

13年で141本枯れ「守る会」補植提案

「守る会」は02年から毎年、桜を一本ずつ観察して「樹勢調査報告書」をまとめている。それによると、93年時点で並木の主要部分に823本あったとされる桜は、現在682本。毎年10本前後が枯れている。昨夏はほとんどすべての木で、葉が葉脈を残してハバチの幼虫に食い荒らされていた。枯死を助長する腐朽菌も、46%の木で見つかった。それでも桜はこの春、いつものように花を咲

かせ、守る会の人たちは胸をなで下ろした。守る会代表世話人の藤村英明さん(71)は「苗を育てて補植しないと、いつかは並木がなくなってしまう」と心配する。今回の報告書では、新しい木が枝を伸ばす空間が確保されている場所として、陣屋橋周辺などを3カ所を補植の「適地」として提案した。今秋には、大正時代に小金井桜の苗木が植えられた岩手県北上市から、桜を「里帰り」させる構想もある。都が管理する国の名勝であるため、守る会など3団体は協力し、補植の許可を求めている。



市制施行50周年を記念し、本市の名誉市民である松本浩吉氏の宮崎駿氏に、制作していただいた市のイメージキャラクターです。



ホームページ <http://www.city.koganei.lg.jp/>

モバイル(携帯電話)版 <http://www.city.koganei.lg.jp/m/index.htm>

毎月1・15日発行

世帯と人口

23.1.1現在

世帯数 55,967(10増) 男 57,629(66増)

人口 115,589(58増) 女 57,960(8減)

※ 世帯数および人口は、住民基本台帳と外国人登録によるものです。()内は前月比

主な内容

◆お知らせ

緑の基本計画(案)に対するパブリックコメントを募集、市職員募集、市民防犯講習会を開催、見え始めました新しい小金井 ほか

◆福祉のひろば

介護予防個別相談会、まなぶ・語る・つながる家族の会、介護に役立つ救急救命講座 ほか

◆健康ガイド

市民公開講座・上手な医者のかかり方、離乳食教室、両親学級ひまわりクラス ほか

◆催し

おはなし会講座、小金井アートフル・ジャック!!、市立はげの森美術館 ほか

よみがえ 平成の世に甦る！ 2月11日(祝)～13日(日) 名勝小金井桜大復活祭イベント



国指定の史跡玉川上水および名勝小金井(サクラ)の整備活用事業がスタートしました。今後10年をかけて、東京都・地元自治体・市民団体が協働して事業を行います。

◆お知らせ

名勝小金井桜の歴史を伝えるべく、茨城県桜川産のヤマザクラをおよび市内に現存する古木時代に補植された桜から継ぎ木した後継樹を植栽します。

◆お知らせ

◆福祉のひろば

◆健康ガイド

◆催し

桜のまちづくりサミット

小金井桜のルーツである奈良野山保勝会・茨城県日本花の会桜川支部・岩手県北上さくら会の各代表者をお招きし、パネルディスカッションを行います。

とき 2月12日(土)午後1時30分～4時

ところ 市民会館・萌え木ホール

定員 80人(多数抽選)

申込 1月25日(消印有効)までに、往復はがきに住所・氏名・電話番号を明記し、生涯学習課「桜のまちづくりサミット係」(〒144-8504住所不要)へ。

◆お知らせ

◆福祉のひろば

◆健康ガイド

◆催し

桜のまちづくりサミット

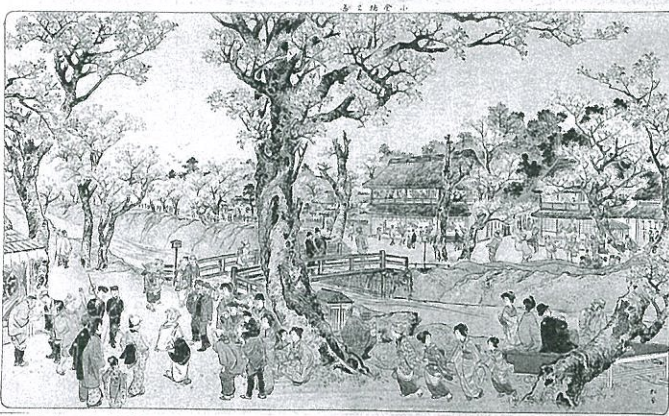
小金井桜のルーツである奈良野山保勝会・茨城県日本花の会桜川支部・岩手県北上さくら会の各代表者をお招きし、パネルディスカッションを行います。

とき 2月12日(土)午後1時30分～4時

ところ 市民会館・萌え木ホール

定員 80人(多数抽選)

申込 1月25日(消印有効)までに、往復はがきに住所・氏名・電話番号を明記し、生涯学習課「桜のまちづくりサミット係」(〒144-8504住所不要)へ。



山本松谷「小金井橋之図」(明治39年・風俗画報・小金井名所図会より)

名勝小金井(サクラ)の中心地であった小金井橋の拡張工事の完成を記念し、橋の四隅に奈良野山保勝会・茨城県桜川・岩手県北上および小金井桜の後継樹を植栽します。

とき 2月11日(祝)午後2時～3時30分

ところ 玉川上水モテル地区(都立小金井公園歩道橋・関野橋の周辺)

◆お知らせ

◆福祉のひろば

◆健康ガイド

◆催し

桜のまちづくりサミット

小金井桜のルーツである奈良野山保勝会・茨城県日本花の会桜川支部・岩手県北上さくら会の各代表者をお招きし、パネルディスカッションを行います。

とき 2月12日(土)午後1時30分～4時

ところ 市民会館・萌え木ホール

定員 80人(多数抽選)

申込 1月25日(消印有効)までに、往復はがきに住所・氏名・電話番号を明記し、生涯学習課「桜のまちづくりサミット係」(〒144-8504住所不要)へ。

◆お知らせ

◆福祉のひろば

◆健康ガイド

◆催し

桜のまちづくりサミット

小金井桜のルーツである奈良野山保勝会・茨城県日本花の会桜川支部・岩手県北上さくら会の各代表者をお招きし、パネルディスカッションを行います。

とき 2月12日(土)午後1時30分～4時

ところ 市民会館・萌え木ホール

定員 80人(多数抽選)

申込 1月25日(消印有効)までに、往復はがきに住所・氏名・電話番号を明記し、生涯学習課「桜のまちづくりサミット係」(〒144-8504住所不要)へ。

◆お知らせ

◆福祉のひろば

◆健康ガイド

市・都民税(住民税)、所得税

間もなく申告の時期です

申告期間は

2月16日(水)～3月15日(火)

市・都民税(住民税)、所得税の申告の準備はお済みですか。

申告していただくのは、平成22年度の所得です。期間内に、正しい申告をしましょう。

申告用紙は、市・都民税は2月8日(火)に市役所から、所得税は1月中旬に税務署から、前年の所得状況に応じてそれぞれ郵送します。用紙が届かなかった方や新たに必要となった方は、市または税務署までご連絡ください。

なお、武蔵野税務署では、2月20日(日)、27日(日)午前9時～午後5時、市では、申告期間中の日曜日前9時～午後1時に臨時窓口を開設して申告書の受け付けを行います。

※ 所得税の還付申告は、1月から税務署で受け付けています。

〈市・都民税の申告〉

所得が給与のみの方で勤務先から「給与支払報告書」が小金井市に提出されている方、所得が公的年金のみの方で支払先から「公的年金等支払報告書」が小金井市に提出されることになっている方以外、市・都民税の申告が必要です。

申告の際は、平成22年中の所得や控除に関する書類(源泉徴収票、生命保険や国民年金保険料の支払額証明書等)をご用意ください。

なお、所得税の確定申告をする方は、市・都民税の申告をする必要はありません。

〈国税庁のホームページで確定申告書の作成ができます〉

確定申告書A様式およびB様式を利用する方は、国税庁のホームページ(<http://www.nta.go.jp>)の「確定申告書作成コーナー」で確定申告書の作成をすることが出来ます。ただし、申告内容によっては利用できない場合もありますのでご注意ください。

税理士会・無料申告相談

とき 2月3日(木)、4日(金)、いずれも午前9時30分～11時、午後1時～3時

ところ JA東京むさし小金井支店3階ホール(中町4-16-22)

対象 小規模の事業者および年金所得者や還付申告を受ける給与所得者(譲渡所得がある方は除きます)その他、車の売却は、遠慮ください。

問合せ 東京税理士会武蔵野支部(0422-5510313)

問合せ 市・都民税課 市役所第2庁舎3階(042-383-9819・9820) 所得税課 武蔵野税務署(武蔵野市吉祥寺本町3-27-120 042-531-1311)

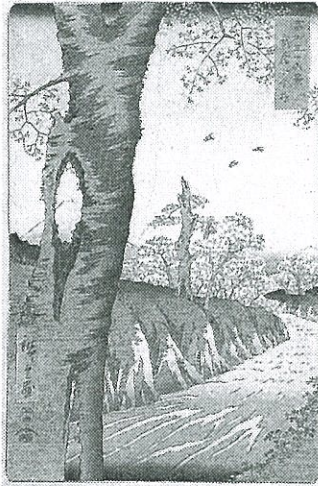
よみがえれ小金井桜

吉宗の時代に植えられ、広重が錦絵に

徳川吉宗の時代に植えられ、歌川広重が錦絵に描いた小金井桜。衰えが目立ち、かつての面影がなくなった名勝をよみがえらせようという動きが小金井市内で本格化してきた。来月11日には後継樹などヤマザクラ26本の植樹祭があり、記念のイベントも開かれる。(山本奈朱香)

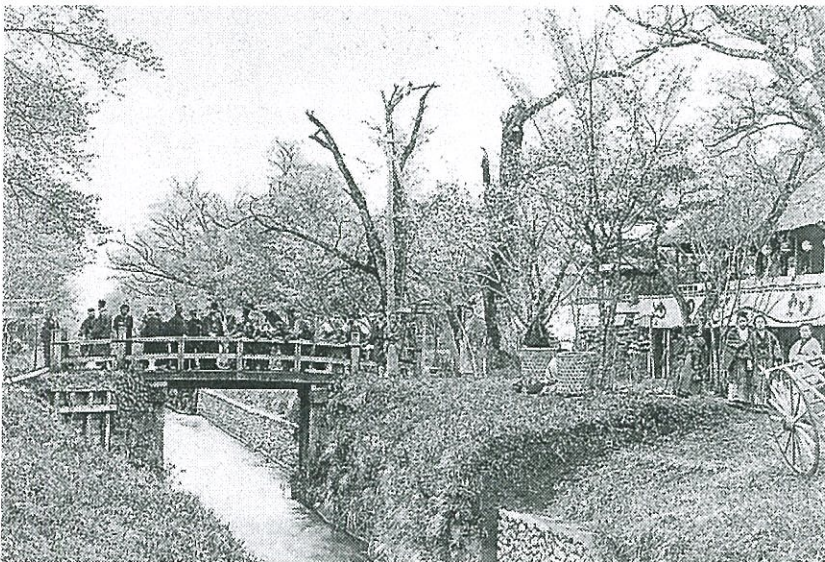
小金井桜は、江戸時代中期の元文2(1737)年、奈良・吉野などから取り寄せたヤマザクラを玉川上水の両側約6キロにわたって植えたのが起源とされる。13代将軍家定や明治天皇が観覧したと伝えられ、1924年には国が名勝に指定した。

だが、戦中・戦後は管理が滞り、老木の枯死が進んだ。上水堤に歩行者用の柵が設置された63年からは花見もしづくなり、花見の拠点は多くのソメイヨシノが植えられた都立小金井公園に移っていった。小金井桜の継承を願って活動してきた「名勝小金井桜の



小金井桜が描かれた歌川広重の錦絵「富士三十六景武蔵小金井」(1859)

来月 玉川上水沿い 植樹祭



明治30年代、花見の頃の小金井橋(手彩色写真)＝いずれも小金井市提供

会(事務局長の小沼広和さん(62)は「小金井桜は小金井公園の桜だと思っている市民も多い」と嘆く。近年はケヤキや雑木が生い茂り、日照不足や排ガスで桜が枯れ続けている。同会が昨

年7月に行った樹勢調査によると、93年以降の累積枯死樹数は188本、枯死率は約23%だったという。小沼さんが期待するのが、玉川上水を管理する都水道局が中心となって進める「玉川上水・小金井桜整備活用計画」。今後10年かけて苗屋橋から梶野橋付近まで約3キロ間の雑木などを伐採し、ヤマザクラを植えていく。

植樹を記念し、伊藤さんや小沼さんが中心になって「平成の世に甦る! 名勝小金井桜大復活祭」を開く。2月11日午後2時から梶野橋付近のモデル地区、同3時から小金井橋で、それぞれ植樹祭をする。同12日午後1時半からは「萌え木ホール」でパネルディスプレイ「桜のまちづくりサミット」。サミットの申し込みは往復はがきに住所、氏名、電話番号を書いて、〒184・8504 小金井市本町6の6の3 市生涯学習課「桜のまちづくりサミット係」へ。31日の消印有効。

2010年度は、試験的に新小金井橋と梶野橋の間の約150メートルを整備する。雑木伐採が昨年終わり、来月、いよいよ植樹が始まる。植えられるのは、市内に残る江戸時代の桜から接ぎ木した後継樹と、玉川上水堤などの古木から接ぎ木した計21本。そして、同じ系譜とされ、茨城・桜川で実生から育てた苗木5本だ。地元で接ぎ木をして後継樹を育てたのは「小金井公園桜守の会」。専門家ではないため接ぎ木の成功率は2割ほどだったといい、世話人代表の伊藤正義さん(70)は「娘をデビューさせるような気持ち」と喜ぶ。



名勝小金井桜 復活へ

市など10年計画

小金井市の玉川上水で花を咲かせる桜(昨年4月撮影、名勝小金井桜の会提供)

江戸期と同様 吉野山から植樹

関東屈指の桜の名所として栄えた「名勝小金井桜」の復活を目指す10年計画の事業が4月から、都や小金井市、小平市、地元の市民団体との共同で始まる。復活に向けて活動してきた「名勝小金井桜の会」(大久保慎七会長)は「桜並木復活への第一歩」と喜ぶ一方、「小金井と桜の歴史を多くの市民に知ってもらい、活動への理解を得たい」と、20日に小金井市の萌え木ホール(前原町3)でシンポジウムを開く。

(佐々木大輔)

「歴史知って」 20日にシンポ

同会によると、「名勝小金井桜」は江戸時代、玉川上水に沿って奈良や茨城の桜を植えたのが始まり。桜の成長とともに、都内各地から花見客が訪れるように

なり、1924年には、国の名勝に指定された。

しかし、65年に玉川上水 downstream 部分の通水が停止されたことや、86年に下水処理水が流されるようになったこと、その間、桜やほかの木々の手入れが十分されなかったため、桜以外のけやきなどの成長が促された。

現在は、桜以外の木々が日陰を作るなどして、かつてほどの桜は見られなくなり、同会の小沼広和さん(61)らは現状を「名勝の面影が失われてしまった」と嘆く。市内の桜の名所は現在でこそ小金井公園だが、それ以前は、玉川上水の桜並木だったという。

再生事業は、2010年度から10年をかけ、名勝指

定区間の約6キロで、江戸時代に小金井に植えられた桜と同じ山桜を奈良の吉野山や茨城の桜川、1923年に小金井の桜が植えられた岩手県北上市から譲り受けるなどして、植えることになっ

ていく。初年度となる今年、玉川上水の新小金井橋から関野橋間(約640メートル)のうちの約150メートルで試験的に、桜が育ちやすい環境を整えるため、けやきなど雑木の枝切りや伐採を行い、桜川から取り寄せた苗木などを植えていく。

今回、けやきの緑に親しんでいる人たちにも「桜を育てていく意味や、小金井と桜の歴史を広く知ってもらい、再生事業への市民合意を形成したい」と、シン

ポを企画したという。

シンポでは、小金井市在住のエッセイスト林望さんが「新能『黄金桜』と小金井桜の世界」と題した基調講演を行い、東京学芸大学の大石学教授、法政大の永瀬克己教授、日本花の会の和田博幸主任研究員がパネルディスカッションを行う。

シンポは、午後1時半から。希望者は往復はがきで応募する(10日消印まで有効)。定員は60人で、多数の場合は抽選。資料代として1000円を当日集める。申し込みは、同会事務局(〒184-0012小金井市中町1の8の16岩間さん方)、問い合わせは、小沼さん(090・6507・4310)へ。

茨城

水戸総局

〒310-0062

水戸市大町1-2-38

☎ 029-226-0131

fax 029-226-5055

mail mito@asahi.com

日立 ☎ 0294-21-0070

鹿島 ☎ 0299-82-2375

筑西 ☎ 0296-22-2313

土浦 ☎ 029-822-0131

つくば支局

〒305-0031

つくば市吾妻2-8-8

つくばシティビル601号

☎ 029-855-0131

fax 029-851-4606

取手 ☎ 0297-72-2132



小金井市の「桜の会」にヤマザクラの苗木を贈る子どもたち＝桜川市立岩瀬小学校

桜川・岩瀬小 育てたヤマザクラ 名所再生に役

江戸時代から桜の名所として知られる東京都小金井市の「小金井桜」の再生に、桜川市立岩瀬小学校の子どもたちが育てたヤマザクラが役を担うことになった。25日、小学校を訪れた保存グループのメンバーらに、30本の苗木が児童から手渡された。

（金森定博）

桜川のヤマザクラは古来、「西の吉野、東の桜川」と並び称され、平安歌人が歌を詠み、室町時代には謡曲「桜川」の舞台にもなった。

「小金井桜」は玉川上水に沿って約6kmの桜並木。270年ほど前に、その吉野や桜川のヤマザクラを植えたといわれている。歌川広重や葛飾北斎が錦絵に描き、江戸近郊随一の名所として知られ、1924（大正13）年には国の名勝に指定された。

しかし、昭和40年代以降は玉川上水の通水停止や周辺の都市化により雑木が増加。都や市、市民団体が今年度から10カ年計画で復活・再生に乗り出し、桜川市にヤマザクラの提供を求めている。

岩瀬小では約30人の環境グループが、桜の歴史などを学び、育てた苗木を市内の公園や予定地に植樹するなどの活動に取り組んでいる。

今回、贈ったのは国の天然

東京「小金井桜」に苗木30本提供

記念物に指定されている桜川磯部稲村神社のヤマザクラで、昨年6月、3センチほどの苗を境内の自生地から採取し、学校の花壇で60センチほどに育てた。今後、小金井市内の畑でさらに育て、4、5年後に玉川上水沿いに植えられたいという。

この日、小学校を訪れたのは「名勝 小金井桜の会」の小沼広和事務局長ら4人。児童を代表して6年生の阿部真弥君が「大事に育て大きい花を咲かせてください。桜並木が復活することを願っています」と話すと、小沼さんは「桜川からのサクラと分るように植えますので、東京に来たときにはぜひ見に来て下さい」とこたえていた。

(19) 地域 茨城 新聞

筑西支社（筑西市、結城市、桜川市）

☎ 0296 (22) 2439 ファクス (25) 3167

下妻支局（下妻市、八千代町）

☎ 0296 (44) 2551 ファクス (44) 2996

桜川市商工会有志

よみがえれ桜並木

桜を活用したまちづくりに取り組んでいる桜川市商工会青年部の有志で構成する「サクラサク里プロジェクト」（渡辺雄司代表）は25日、東京・小金井市の「名勝小金井桜の会」に山桜の苗木30本を寄贈した。

桜の会は玉川上水沿いの桜並木を復活させようと、10年がかりで上水沿いに計1200本の山桜を植樹する計画を進めている。寄贈された苗木は桜川磯部稲村神社の境内にある山桜を種から育てた。岩瀬小学校（足立区）の児童30人が総合学習で、同プロジェクトや同神社の磯部亮宮司の指導を受けながら1年間育ててきた。

校庭で行われた贈呈式には、同プロジェクトや学校関係者、桜の会など約40人が参加。児童3人が約50センチに育った苗木を手渡した。

児童を代表して6年生の安部真弥さんが「大切に育て、

東京の団体に苗木寄贈

育てた山桜の苗木を小金井桜の会に手渡す児童たち＝桜川市鉾田

きれいな花を咲かせてください」と要望し、桜の会的小沼広和事務局長は「小さな苗木を育ててくれてありがとう。きれいな花を見に来てほしい」と感謝した。

寄贈された苗木は背丈ほどに育てた後、並木に移植する。同プロジェクトは今後数年間で苗木約1500本を寄贈する予定だ。（荒井秋男）





武蔵野支局

〒180-0006

武蔵野市中町1-9-5
第一中央ビル5階

☎ 0422-51-5531

fax 0422-55-6568

mail musashino-
shikyoku@
asahi.com

立川支局

☎ 042-524-5104

東京総局

☎ 03-3508-0390

購読・配達のご用は

☎ 0120-33-0843

(7:00~21:00)

広告のご用は

☎ 03-3547-5552

折り込みのご用は

☎ 042-540-1971

きょうの天気

6~12時 降水確率 12~18時

0	大手町	0
0	練馬	0
0	府中	0
0	八王子	0

大手町 練馬 府中 八王子

上水の土手 野花戻った



ケヤキなどを伐採した土手に
咲くノカンゾウ＝小金井市

小金井桜復活へ木伐採、日光届く

小金井市の玉川上水沿いで、最近姿をほとんど消していたノカンゾウなどの野花が咲きはじめた。江戸時代からの「小金井桜」の復活をめざしてヤマザクラの植樹を進めようとケヤキなどを伐採したところ、日当たりが良くなって野花が育つようになったという。活動を進める市民や専門家が11日に現地を訪れ「土手の植生も昔の姿を取り戻しつつある」と喜んだ。

ノカンゾウ咲く昔の姿に

玉川上水沿いを訪れたのは「名勝小金井桜の会」のメンバーや、東京農工大学の名誉教授(景観生態学)で「日本自然保護協会」専務理事の亀山章さん。玉川上水を管理する都水道局や小金井市などが昨年度に木を伐採し、ヤマザクラを植えた場所を見て回った。勢いよく育つ野草の中でも、オレンジ色のノカンゾウの花がひととき目立つ。1週間ほど前から、花が咲き始めたという。

亀山さんによると、玉川上水の通水が途絶えた昭和40年代以降、土手は放置された。ケヤキなどの大きな木が増えたため日光が届かなくなつて桜が枯れ、土手の植生も大きく変わった。

今回の伐採で日当たりが良くなり、秋にはヒガンバナ、春先にはニリンソウが見られそうだという。「名勝小金井桜の会」事務局長の小沼広和さんは「桜だけでなく、年間を通して野花を楽しめる場所になりそうです」と期待する。

(岡戸佑樹)

むさしの

武蔵野支局

〒180-0006

武蔵野市中町1-9-5

第一中央ビル5階

☎ 0422-51-5531

fax 0422-55-6568

mail musashino-shikyoku@asahi.com

立川支局

☎ 042-524-5104

東京総局

☎ 03-3508-0390

「小金井桜」取り組みに評価

市教委調査に67戸回答



ケヤキなどを伐採し、ヤマザクラを植樹した玉川上水沿い＝小金井市

かつて江戸の名物だった「小金井桜」を復活させようという玉川上水沿いの取り組みについて、小金井市教育委員会が近隣住民370戸にアンケートしたところ、

ろ、67戸から回答があり、7割弱が「以前に比べて環境が良くなった」と答えた。上下水を管理する都水道局や同市が中心となり、昨

年度、試験的に新小金井橋と関野橋の間の約150メートルを整備。日光が届かなくなっていたサクラが枯れた原因とされるケヤキなどの大きな木を伐採し、ヤマザクラを植樹した。

アンケートで、伐採後の環境が「良くなった」と答えたのは46戸。「サクラの生育環境が整った」「日が当たり明るくなった」「たぐさんの落ち葉が出るのが改善された」といった意見が目立った。

一方で、「まだ判断できない」という声も16戸から寄せられた。「悪影響があった」という回答も6戸あり、「観光整備のための伐採は許されない」「一時の花の美しさより自然環境が大事だ」と、ケヤキなどを伐採したことへの批判の声もあった。